

令和3年度診療年報

NHO 長崎川棚医療センター

巻頭言

「感染症って最強ですよ」と同僚の医師から話しかけられた。Covid-19 感染に関することを巻頭言に記載するのは 3 年目になるが、今年はいつどこで感染してもおかしくない、まさに「With コロナ」の状況になっている。ワクチン接種や体調不良時の PCR 検査など、対策を怠ってはならない。

様々な学会や会議は当然のようにオンラインで催されている。アクセスは容易になったが、参加を証明するクレジットを得る方法は現地での参加に比べて複雑になっており、発表も敷居が高く感じられる。通信インフラに対する不安や、個人情報の保護に関する不安も拭いきれないものがある。外来でのコロナ陽性者の受け入れについては、行政との関りを避けることはできない。かかりつけの患者がコロナ陽性者となった場合、コロナ感染症状との兼ね合いを判断して入院の必要性や受け入れのできる病院を検討することになる。病院が独自に判断したのでは長崎県全体のコロナ陽性患者の受け入れ体制が整わなくなってしまうからだ。

学会はオンラインのみのこともあれば、現地開催とオンラインのハイブリッド開催もあった。日々の診療は感染者数の動向や政府の感染対策の動向をみながらおこなってきた。その軌跡が本年度の診療年報から伝わってくるだろうか。With コロナの状況では、従来通りできることは継続して、できなくなったことはどうすればできるようになるかを考えなければならないだろう。必要十分な感染対策を講じたうえで、臨床と研究の現場は動いている。

患者と医師間や研究者間で対面での診療や議論が十分にできなくなった現状で、それを補う技術や手法が開発され実際に用いられているが、従来の対面での診療や議論を補いきれてはいないだろう。安心して安全な医療の提供や質の高い研究成果を得るためには、患者と医師間や研究者間での信頼関係が今まで以上に求められると考えられる。診療年報を読み各部門の一年間の実績（軌跡）を知ることによって病院内のスタッフ間の信頼関係が強くなるとともに、地域の人々にも当院についての理解が深まり信頼関係を構築する一助になることを期待する。

2022 年 8 月

長崎川棚医療センター 臨床研究部長

福留隆泰

診療部

診療部－消化器内科－

■ 診療科の特色

当院は九州地区の神経・筋疾患基幹医療施設ですが、地域の総合病院としての役割も担っており、当科においては消化管疾患、肝胆膵疾患についても積極的に取り組んでいます。

診療科の特色として、検査、手技が多く、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的逆向性胆管膵管造影、内視鏡的総胆管結石除去術、内視鏡的胆管ステント挿入術、内視鏡的観察下胃瘻造設術などを行っています。

■ 入院診療実績

疾患名	患者数	
	令和3年度	令和2年度
食道癌、胃癌、大腸癌	39	52
肝癌	0	2
胆管癌	1	7
膵癌	4	3
肝障害	10	4
大腸ポリープ	83	83
消化管出血	25	16
良性胆道疾患（胆石等）	21	17
胃、腸疾患	38	30
その他	73	69
消化器疾患全体	294	283

■ 検査、手技実績

検査、手技名	患者数	
	令和 3 年度	令和 2 年度
上部消化管内視鏡	473	484
大腸内視鏡	485	431
内視鏡的逆向性胆管膵管造影	21	17
内視鏡的消化管止血術	7	18
内視鏡的食道静脈瘤結紮術	1	2
胃瘻造設術（胃瘻交換）	17(9)	13(9)
内視鏡的大腸ポリープ切除術	87	85
内視鏡的胆管ステント挿入術	11	7
内視鏡的総胆管結石除去術	10	6
内視鏡的イレウス管挿入	2	5
内視鏡的大腸ステント留置術	0	1
内視鏡的異物除去	0	4

■ 将来の展望

現在、当院の消化器内科医は 2 名で消化器疾患の診療、検査に携わっている状態ですが、地域の要求に対し満足いただける医療を目指して努力しております。

コロナ禍のなかで、まだ先の見通せない状況ではありますが、今後もさらなる地域医療への貢献を目標といたします。

（文責：消化器内科 松本章子）

診療部－脳神経内科－

■診療科の特色

当院の脳神経内科は、西九州脳神経センターとしての役割を担い、脳卒中、めまい、頭痛、認知症といった一般的な疾患から、パーキンソン病を始めとする神経変性疾患、多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多発筋炎、髄膜・脳炎、ジストニア、てんかんなど様々な神経・筋疾患に対する専門的診断治療を行っています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行が終息することなく、面会や発熱者の受診などについては、まだまだ制約が多い状況が続きましたが、個々の患者に対して最善の治療を目指し、診療を行いました。

外来では、川棚町内を始め、佐世保、有田・伊万里、波佐見、長崎市内、島原など、広い地域を対象として診療を行っています。初診時には、問診・神経学的診察を行った上で、MRIなど画像診断、電気生理学的検査、RI検査、筋生検などを駆使して診断し、急性期治療、慢性期の管理などを行っています。また、ジストニアや痙性斜頸、眼瞼痙攣に対しては、ボトックス療法を積極的に行っています。パーキンソン病に対しては、長崎県で唯一、脳神経外科と共同して脳深部刺激療法を行っており、術前評価、植え込み手術からその後の管理まで行っています。他県で手術を受けた患者さんでも、必要に応じて、当院で治療を引き継ぐ場合もあります。

入院では、①脳梗塞急性期治療、②パーキンソン病などの変性疾患に対する診断、薬剤調整やリハビリテーションといった治療、③重症筋無力症や多発性硬化症など免疫性神経疾患に対するステロイドパルス療法、大量γグロブリン療法、血漿交換療法などの免疫治療、④進行期神経難病患者の在宅療養支援やレスパイト入院、などを行っています。在宅での人工呼吸器やNPPV治療も行っており、導入時の各調整や指導、その後の管理や定期的なレスパイト入院など、無理なく在宅ケアが開始・継続できるようサポートしています。

病棟カンファレンスなども行い、他職種からなるチームで診療を行っています。特に進行期神経難病患者の在宅支援に関しては、医師、病棟看護師、MSW、リハビリスタッフはもちろん、在宅での訪問診療医、訪問看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパーなどを含めたチーム医療が必要であり、退院前カンファレンスを開催するなど密な連携を心がけています。

また、療養介護サービスによる入院も行っており、進行期神経難病患者さんに対して、お住まいの自治体での審査が一定の基準を満たせば、長期入院も可能です。人工呼吸器を装着された患者さんも多く入院されており、それぞれの方法で意思表示を行い、長期療養されています。当科としましても、現在は

コロナ感染流行のため制限がありますが、折に触れて外出・外泊支援や季節の催しなどを行い、入院生活のサポートを行っています。筋緊張の亢進により、日々のケアによる皮膚損傷や疼痛が生じる場合もあり、ボトックス療法や ITB 療法なども用いて、症状緩和を行っています。

■入院診療実績

疾患	症例数(人)
脳血管障害	54
神経変性疾患	270
(うちパーキンソン病)	(106)
(うち筋萎縮性側索硬化症)	(95)
脱髄・炎症性疾患	20
ニューロパチー	35
ミオパチー	21
神経筋接合部疾患	3
脳炎・髄膜炎	1
てんかん	10
その他	39
小計	453
一般内科疾患	229
合計	682

・主要な検査、治療

検査・治療	件数
筋電図	87
脳波	62
筋生検	2
ボトックス療法	84
血漿交換療法	1
DBS(新規)	32(1)
ITB(新規)	2(1)

■ 研修・教育

カンファランス	参加職種	人数	開催
脳神経内科カンファレンス	医師	5	1回/週
脳神経内科・脳外科 合同抄読会	医師	7	1回/週
脳卒中カンファレンス	医師、看護師、リハビリ療法士、栄養士、MSW	5～10	1回/週
病棟カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、 リハビリ療法士、栄養士、MSW	15	1回/週
退院前カンファレンス	患者・家族、在宅療養支援関係者、病棟スタッフ	10	適宜

・治験関連

治験	1件
受託研究	5件

■ 将来への展望

社会や地域の高齢化に伴い、一人の患者を取り巻く基礎疾患や社会的背景も複雑化し、総合的な判断が必要となります。パーキンソン病や認知症などの慢性疾患は増加傾向となり、また、これまでは比較的若い世代に後発していた免疫性神経疾患の高齢発症も問題となっています。当科では、様々な神経疾患を中心とした全人的医療を目指し、生涯にわたってかかりつけ医となれるような診療を続けていきたいと考えています。

■ 研究実績

・競争的研究資金の獲得

(1) 厚生労働科学研究費 有 スモンに関する調査研究班 福留 隆泰 厚生労働省行政推進調査事業補助金 (難治性疾患政策研究)

学会

1. 症状が変動・遷延し IVMP が有効であった神経核内封入体病の一例

永石 彰子(国立病院機構長崎川棚医療センター 脳神経内科), 林 信孝, 松屋 合歓, 成田 智子, 清原 龍士, 曾根 淳, 福留 隆泰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 11 号 Page778(2021.11)

2. 神経痛性筋萎縮症との鑑別が困難であった神経リンパ腫症の 1 例

富田 祐輝(国立病院機構長崎川棚医療センター 脳神経内科), 松屋 合歓, 成田 智子, 永石 彰子, 福留 隆泰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 6 号 Page431(2021.06)

3. ステロイドパルス療法後の維持療法なく症状改善が維持された脳アミロイドβ関連血管炎の 1 例

林 信孝(国立病院機構長崎川棚医療センター 脳神経内科), 山下 魁理, 平山 拓朗, 金本 正, 島 智秋, 太田 理絵, 長岡 篤志, 吉村 俊祐, 宮崎 禎一郎, 立石 洋平, 辻野 彰

第 232 回日本神経学会九州地方会

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 11 号 Page778(2021.11)

4. 片側病変で発症した急性出血性白質脳炎の一例

林 信孝(長崎大学 脳神経内科), 松岡 隆太郎, 忽那 史也, 山下 魁理, 平山 拓朗, 金本 正, 島 智秋, 太田 理絵, 長岡 篤志, 吉村 俊祐, 宮崎 禎一郎, 立石 洋平, 二口 充, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 1 号 Page71(2021.01)

5. 筋ジストロフィー心筋障害に対する TRPV2 阻害薬多施設共同非盲検単群試験

松村 剛(国立病院機構大阪刀根山医療センター), 小森 哲夫, 瀬川 和彦, 中村 昭則, 久留 聡, 渡邊 千種, 福留 隆泰, 本吉 慶史, 田村 拓久, 高橋 俊明, 齋藤 明子, 橋本 大哉, 岩田 裕子

Source : 筋ジストロフィー医療研究(2433-1708)8 巻 Page45-46(2021.11)

6. 新型コロナウイルスワクチンの関心とワクチン接種との関連 グーグルトレンドを用いた地域相関分析

木下 琢也(長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科医療情報学分野), 松本 武浩, 田浦 直太, 臼井 哲也, 松屋 合歓, 西口 真由美, 堀田 ほづみ, 中尾 一彦

Source : 医療情報学連合大会論文集(1347-8508)41 回 Page1139-1140(2021.11)

7. 常染色体劣性遺伝型肢帯型筋ジストロフィータイプ 14(LGMDR14)の一家系

富田 祐輝(国立病院機構長崎川棚医療センター 臨床研究部), 松屋 合歓, 成田 智子, 斎藤 良彦, 西野 一三, 福留 隆泰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 6 号 Page378-384(2021.06)

8. パーキンソン病患者におけるスマートグラスを利用した遠隔専門外来診療の検討

宮崎 禎一郎(長崎大学病院 脳神経内科), 野中 文陽, 延末 謙一, 松岡 隆太郎, 忽那 史也, 山下 魁理, 林 信孝, 太田 理絵, 平山 拓朗, 金本 正, 島 智秋, 長岡 篤志, 吉村 俊祐, 立石 洋平, 前田 隆浩, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 Suppl. Page S317(2021.09)

9. 潜在性脳梗塞への植込み型心電図記録計の適応と心房細動検出率

山下 魁理(長崎大学病院 脳神経内科), 金本 正, 松岡 隆太郎, 忽那 史也, 林 信孝, 平山 拓朗, 島 智秋, 太田 理絵, 長岡 篤志, 吉村 俊祐, 宮崎 禎一郎, 荒川 修司, 土井 寿志, 深江 学芸, 堀江 信貴, 出雲 剛, 立石 洋平, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 Suppl. Page S314(2021.09).

10. ステロイド治療が有効であった孤発性成人発症ネマリンミオパチーの 1 例

島 智秋(長崎大学 脳神経内科), 林 信孝, 吉村 俊祐, 松岡 隆太郎, 忽那 史也, 山下 魁理, 平山 拓朗, 金本 正, 太田 理絵, 長岡 篤志, 宮崎 禎一郎, 立石 洋平, 西野 一三, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 8 号 Page567(2021.08)

11. 抗菌薬無効でステロイド療法が著効し、髄液 16srRNA 解析で肺炎球菌が検出された髄膜炎の一例

松岡 隆太郎(長崎大学 脳神経内科), 長岡 篤志, 忽那 史也, 林 信孝, 山下 魁理, 平山 拓朗, 金本 正, 島 智秋, 太田 理絵, 吉村 俊祐, 宮崎 禎一郎, 清水 皓己, 高橋 健介, 山田 香菜子, 原田 史織, 草野 真央, 立石 洋平, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 6 号 Page429(2021.06)

12. 急性期脳梗塞に対する脳血管形成術後に血管支配領域の出血を呈した 1 例

山下 魁理(長崎大学 脳神経内科), 金本 正, 松岡 隆太郎, 忽那 史也, 林 信孝, 平山 拓朗, 太田 理絵, 島 智秋, 長岡 篤志, 吉村 俊祐, 宮崎 禎一郎, 高平 良太郎, 定方 英作, 堀江 信貴, 出雲 剛, 立石 洋平, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 6 号 Page428(2021.06)

13. 突然の構音障害と左上肢麻痺で搬送され脳卒中との鑑別を要した高齢発症重症筋無力症の 1 例

山口 裕佳(佐世保市総合医療センター 脳神経内科), 藤本 武士, 林 信孝, 鳥村 大司, 前田 泰宏, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 4 号 Page234-238(2021.04)

14. 感染性心内膜炎による脳梗塞への脳血栓回収術が奏功しなかった 1 剖検例

忽那 史也(長崎大学 脳神経内科), 山下 魁理, 金本 正, 松岡 隆太郎, 林 信孝, 平山 拓朗, 太田 理絵, 島 智秋, 長岡 篤志, 吉村 俊祐, 宮崎 禎一郎, 黒濱 大和, 中島 正洋, 松永 祐希, 堀江 信貴, 出雲 剛, 立石 洋平, 辻野 彰

Source : 臨床神経学(0009-918X)61 巻 1 号 Page70(2021.01)

和文

富田 祐輝, 松屋 合歡, 成田 智子, 斎藤 良彦, 西野 一三, 福留 隆泰. 常染色体劣性遺伝型肢帯型筋ジストロフィータイプ 14 (LGMDR14) の一家系. 臨床神経, 61 : 378-384, 2021

論文

1: Nagaishi A, Narita T, Woodhall M, Jacobson L, Waters P, Irani SR, Vincent A, Matsuo H. Autoantibodies in Japanese patients with ocular myasthenia gravis. Muscle Nerve. 2021 Feb;63(2):262-267.

2: Matsumura T, Takada H, Kobayashi M, Nakajima T, Ogata K, Nakamura A, Funato

M, Kuru S, Komai K, Futamura N, Adachi Y, Arahata H, Fukudome T, Ishizaki M, Suwazono S, Aoki M, Matsuura T, Takahashi MP, Sunada Y, Hanayama K, Hashimoto H,

Nakamura H. A web-based questionnaire survey on the influence of coronavirus disease-19 on the care of patients with muscular dystrophy. *Neuromuscul Disord*. 2021 Sep;31(9):839-846.

3: Kiyohara T, Fukudome T, Kamio Y, Koike Y, Murota H. Clinical Course of Atopic Dermatitis in an Adult with Amyotrophic Lateral Sclerosis: Aetiological Implications of Voluntary Movements and Dermatitis Severity. *Acta Derm Venereol*.

2022

4: Nakahara K, Nakane S, Nagaishi A, Narita T, Matsuo H, Ando Y. Very late onset neuromyelitis optica spectrum disorders. *Eur J Neurol*. 2021 Aug;28(8):2574-2581.

5: Watanabe M, Nakamura Y, Sato S, Niino M, Fukaura H, Tanaka M, Ochi H, Kanda

T, Takeshita Y, Yokota T, Nishida Y, Matsui M, Nagayama S, Kusunoki S, Miyamoto K, Mizuno M, Kawachi I, Saji E, Ohashi T, Shimohama S, Hisahara S, Nishiyama K, Iizuka T, Nakatsuji Y, Okuno T, Ochi K, Suzumura A, Yamamoto K, Kawano Y, Tsuji

S, Hirata M, Sakate R, Kimura T, Shimizu Y, Nagaishi A, Okada K, Hayashi F, Sakoda A, Masaki K, Shinoda K, Isobe N, Matsushita T, Kira JI. HLA genotype-clinical phenotype correlations in multiple sclerosis and neuromyelitis optica

spectrum disorders based on Japan MS/NMOSD Biobank data. Sci Rep. 2021 Jan 12;11(1):607.

6 : Tomita Y, Matusya N, Narita T, Saito Y, Nishino I, Fukudome T. [A Japanese family with POMT2-related limb girdle muscular dystrophy]. Rinsho Shinkeigaku. 2021 Jun 29;61(6):378-384.

(文責：脳神経内科 成田智子)

診療部－循環器内科－

1. 診療科の特色/概要・基本診療指針と展望

循環器科 1 人体制となり、急性心筋梗塞などの救急疾患には対応できなくなり、また、心臓カテーテル検査も令和 3 年 6 月以降は施行できなくなっていますが、高齢化が進むなかで地域住民の循環器疾患有病率は確実に上昇してきています。令和 2 年度 8 月より心臓リハビリを開始しました。狭心症に対する冠動脈 CT や徐脈性不整脈に対するペースメーカー植込み術に加え、心不全を中心とした循環器領域の診療を行っていきます。

2. 入院診療実績

入院総数 178 名

平均在院日数 25.4 日

冠動脈造影 4 件（令和 3 年 4 月～ 5 月）

人工ペースメーカー植込・電池交換術 12 件

3. 研修・教育

研修・資格

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本循環器学会認定専門医 1 名

日本内科学会総合内科専門医 1 名

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士 1 名

教育・講演会

院内スタッフ対象学習研修会（AED、EKG、心カテ、心臓リハビリなど） 随時開催

4. 治験・共同研究

■ 分担研究

・EXCEED-J

『簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効果的なハイリスク患者抽出方法の確立』
Establishment of Method to Extra a High Risk Population Employing Novel Biomarkers to Predict Cardiovascular Events in Japan

研究責任者：NHO京都医療センター 臨床研究センター 和田 啓道

・PREHOSP-CHF

『慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立 ～新規バイオマーカーと心不全再入院イベントの関連～』 Development of Novel Biomarkers to Predeict REHOSPintalization in Chronin Heart Failure

研究責任者：NHO京都医療センター 循環器内科 井口守丈

・PREVENTION-HF

『高齢慢性心不全患者における肺炎球菌ワクチン接種とその後の心不全の臨床経過：長崎におけるコホート研究』

研究責任者：

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 予防医療学分野 石見 拓

主たる研究実務担当者：

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 専門職学位課程 予防医療学分野 吉村 聡志

■ 治験：なし

5. 学会・論文など

学会

第 336 回日本内科学会九州地方会 2022 年 1 月 29 日

60 歳代で発症した先天性アンチトロンビン欠乏症による静脈血栓症の 1 例

第 85 回 日本循環器学会学術集会

慢性心不全患者の予後と可溶性血管内皮増殖因子受容体-2との関連 PREHOSP-CHF Study(Association of Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 with Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure: The PREHOSP-CHF Study)

井口 守丈(国立病院機構京都医療センター 循環器内科), 和田 啓道, 篠崎 毅, 鈴木 雅裕, 網代 洋一, 松田 守弘, 小池 明広, 小泉 智三, 清水 雅俊, 小野 裕二郎, 竹中 孝, 阪上 学, 森田 有紀子, 藤本 和輝, 米澤 一也, 吉田 和朗, 二宮 暁代, 中村 俊博, 船田 淳一, 梶川 隆, 大石 佳史, 加藤 徹, 小谷 和彦, 阿部 充, 赤尾 昌治, 長谷川 浩二

論文

1: Iguchi M, Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Ajiro Y, Matsuda M, Koike A, Koizumi T, Shimizu M, Ono Y, Takenaka T, Sakagami S, Morita Y, Fujimoto K, Yonezawa K, Yoshida K, Ninomiya A, Nakamura T, Funada J, Kajikawa Y, Oishi Y, Kato T, Kotani K, Abe M, Akao M, Hasegawa K; PREHOSP-CHF Study Investigators. Soluble vascular endothelial growth factor receptor 2 and prognosis in patients with chronic heart failure. ESC Heart Fail. 2021 Oct;8(5):4187-4198.

2: Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Sakagami S, Ajiro Y, Funada J, Matsuda M, Shimizu M, Takenaka T, Morita Y, Yonezawa K, Matsubara H, Ono Y, Nakamura T, Fujimoto K, Ninomiya A, Kato T, Unoki T, Takagi D, Wada K, Wada M, Iguchi M, Yamakage H, Kusakabe T, Yasoda A, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Abe M, Akao M, Hasegawa K; EXCEED-J Study Investigators. Impact of Chronic Kidney Disease on the Associations of Cardiovascular Biomarkers With Adverse Outcomes in Patients With Suspected or Known Coronary Artery Disease: The EXCEED-J Study. J Am Heart Assoc. 2022 Feb;11(3):e023464.

(文責：循環器内科 二宮暁代)

診療部－代謝内科－

■ 診療科の特色

代謝内科では、糖尿病、バセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症の他、高脂血症、肥満・やせなどの内分泌代謝性疾患に対する診療を行っている。

内分泌疾患については、県内でも常勤の内分泌専門医がいる病院は非常に少ないため、地域の先生方から多くの紹介をいただき、専門的な診断や治療を行い、地域における内分泌専門医療機関として役割を果たしていくことを目指している。また、糖尿病診療においてはコメディカルを加えたチーム医療体制の構築を図り、糖尿病合併症の重症化予防に努めている。

外来では、糖尿病患者の診療が中心であるが、甲状腺疾患の紹介患者数も増加しており、バセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍などの内分泌疾患患者の診療も行っている。

糖尿病患者に対しては病態を考慮した治療を行っている。また、インスリン抵抗性の評価、超音波断層法を用いた頸動脈病変の評価、血圧脈波計を用いた非観血的下肢血行動態の評価、神経伝道速度の定量的評価などを併用して、糖尿病の代謝動態および合併症状態の総合的把握にあたっている。糖尿病患者教育に関しては、外来ならびに病棟での糖尿病療養指導に力を入れている。

教育入院については、2～3週間のクリティカルパスを作成して適切な教育入院を目指している。教育入院後は積極的に逆紹介し、当院外来では血糖コントロール困難例・重症例を中心に糖尿病患者の診療を行っている。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は年々増加傾向にあるため、糖尿病教育には特に重点をおいており、糖尿病療養指導士（看護師・栄養士）とチームを組んで集団指導（糖尿病教室）、個人指導、糖尿病パンフレットなどによる指導などを行っている。外来にて糖尿病性腎症に対する透析予防管理を開始し、医師・専門看護師・管理栄養士による腎症進展予防のための療養指導を行っている。

■ 入院診療実績

・2021 年度入院患者数：55 名

・入院患者主要疾患

疾患名	ICD-10 コード	患者数	死亡数
-----	------------	-----	-----

1) 2型糖尿病	E11*	25	0
2) 甲状腺腫瘍	D440	3	0
3) 高血圧緊急症	I10	3	0
4) うっ血性心不全	I500	2	0
5) めまい症候群	H819	2	0
6) 1型糖尿病	E10	2	0
7) 誤嚥性肺炎	E210	2	0
8) 甲状腺機能低下症	E038	1	0

・主要な検査

甲状腺穿刺吸引細胞診検査件数：6件

■研修・教育

・カンファランス

病棟カンファランス

・教育・講習

なし

■将来への展望

糖尿病診療については、チーム医療を強化し、教育入院の質の向上と入院期間の短縮化を図っていき
たい。また、外来での透析予防管理の件数増加やフットケアなどの療養指導の充実、外来インスリン導
入のための体制づくりを推進していきたい。また、糖尿病性腎症をはじめとする糖尿病の合併症の早期発
見と進展防止の取り組みを強化していきたい。

内分泌診療については、地域の専門医療機関として、内分泌疾患の適切な診断と治療を提供できるよ
う地域の医療機関との連携を強化していきたい。

■ 研究実績

・競争的研究資金の獲得

なし

・原著論文

なし

・学会発表

なし

・講演

なし

・座長

- 1) <座長> 生涯教育講座「腎臓病治療の新たな展開～腎性貧血の話題も含めて～」(長崎大学病院 腎臓内科教授 西野友哉先生) 東彼杵郡医師会学術講演会「火曜会」、川棚、2021.11.9
- 2) <座長> 生涯教育講座「循環器内科から診た心血管イベントを考慮した糖尿病治療戦略」(長崎医療センター 循環器内科部長 於久幸治先生) 東彼杵郡医師会学術講演会「火曜会」、川棚、2022.2.8

(文責：代謝内科 木村博典)

診療部－放射線科－

[1] 放射線科の特色

放射線科は近年その重要度を増しているCT、MRI、RIなどの画像診断を主な業務とし、胃透視(人間ドック)や消化管造影の一部も施行しています。機器自体は比較的になしく高機能で、最新鋭の設備と言えます。電子カルテやレポートシステムも完備で、理想的なフィルムレス環境です。2名の常勤放射線科医(診断専門医)および1名の大学からの非常勤医師により、ほぼ100%を読影(診断)しています。

[2] CT、MRI、RIの検査件数の推移

令和3年度のCTは3913(共同利用329)(←令和2年度3432共同利用267)件とやや増加した。

MRIは、2357(共同利用623)(←2380共同利用581)件とやや減少した(共同利用は増加)。

CT、MRIともに急患などの依頼に対しては対応し易くなっている。

RIは144(共同利用12)(←123共同利用3)件と増加した。

透視は、158(←142)と増加した。

放射線科外来(院外紹介)は、964(←843)と増加した。

[3] 時間外画像診断

令和4年1月、岩野先生の自宅に、iPadを設置し、mobileルーターを使った遠隔読影の環境を設置した。1～3月で、計10件の読影および電話での対応実施した。

通信速度がやや遅いが、画像診断に足る画像だった。

[4] 画像管理加算2

画像管理加算1は、単純写真で請求できるが、当院では胸部単純写真み実施し、一部の加算がとれる。

画像管理加算 2 は、**CT, MRI, RI** などで請求されるが、近年、放射線科学会の新たな申請基準が示され、昨年、当院 2 人の放射線科専門医の連名で、令和 2, 3 年度の画像管理加算 2 の申請が受理された。

[5] 放射線科の現状と展望について

MRI 件数こそわずかに減少したが、CT、RI、透視件数は増加した。

CT、MRI、RI 検査の読影 80%以上という画像管理加算 2 の維持は当分可能と思われる。CT や MRI の全 3 D 処理や再構成は全て放射線技師が作成しており、放射線科医の負担軽減に役立っている。大型医療機器の更新については、FPD(フラットパネルディテクター)の更新が急務で、現在故障がちで、いつ使えなくなるかわからないという不安定な状態である。もし、使えなくなれば、胸部単純写真や腹部単純写真、骨単純写真などが撮像できなくなる可能性がある。

今後も外来や連携室などの病院各部門とさらに協力しながら、病院の活性化に向けて頑張りたいと思います。

[5] 業績:論文

LUNG CANCER, Satoru Nakamura PARIPEX-INDIAN JOURNAL OF RESEARCH : Volume-11 | Issue-02 | February-2022

(文責：放射線科 中村 悟)

診療部－脳神経外科

(1) 入院症例数 165 名

(2) 手術症例数 55 例

外傷

開頭血腫除去（急性硬膜下血腫） 2

慢性硬膜下血腫 13

機能外科手術

パーキンソン病・本態性振戦など

脳刺激装置交換 27

重症痙性麻痺治療薬髄腔内持続注入用植込みポンプ設置（ITB） 2

脊髄刺激装置交換（SCS） 2

てんかん

側頭葉海馬切除 1

迷走神経刺激装置植込 3

迷走神経刺激装置交換 3

水頭症手術

シャント手術 1

その他

創傷処理 1

(3) 剖検数 0

I. 論文業績

- (ア) Developmental outcome after corpus callosotomy for infants and young children with drug-resistant epilepsy. Honda R, Baba H, ..., Toda K,
Epilepsy & Behavior 117: 2021.
<https://doi.org/10.1016/j.yebeh.2021.107799>

II. 学会発表

- (ア) 脳梗塞後の痙性麻痺に対して髄腔内バクロフェン（ITB）療法を実施した 1 例. 戸田啓介, 野田満. 第 40 回長崎脳神経外科研究会（長崎大学医学部）2021 年 7 月 3 日
- (イ) 当院における進行性パーキンソン病に対する DBS 治療の効果. 野田満, 戸田啓介.
第 41 回長崎脳神経外科研究会（出島メッセ長崎）2021 年 12 月 11 日
- (ウ) 長崎県北地区におけるニューロモジュレーション. 戸田啓介. 第 142 回県北神経懇話会特別講演会 基調講演（web 配信）2022 年 1 月 25 日

（文責：脳神経外科 戸田啓介）

診療部－外科－

1. 診療科の特色／概要・基本診療指針

当科では鏡視下手術(腹腔鏡、胸腔鏡)・小切開手術を主体にした低侵襲手術、高齢者・病弱者に対する十分な術前管理に基づいた安全性の高い手術を基本とします。領域は甲状腺・乳線・肺・消化管・(胃、小腸、大腸、直腸)・肝臓・胆嚢・膵臓のほか、下肢静脈瘤、難治性神経疾患に対する喉頭気管分離術など幅広く行うことを方針としています。癌腫の診療には、各臓器別に診療ガイドラインからエビデンスに基づいた治療を選択するようにしています。また、化学療法や癌緩和医療など、手術以外の分野の診療も積極的に行っています。

2. 入院診療実績

令和3年度には274名入院され、外科・呼吸器外科で106症例(全身麻酔90例、腰椎麻酔5例、局所麻酔11例)の手術が行われました。

●臓器別手術症例数

	全身麻酔	腰椎麻酔	局所麻酔
胃	6	---	---
小腸	10	---	---
結腸、直腸	28	1	2
胆嚢、総胆管	28	---	---
ヘルニア	12	4	2
呼吸器	1	---	---
その他	5	---	7
総数	90	5	11

術式分布
腹腔鏡下手術 19
開腹手術 9

3.研修・教育

入院患者さんの栄養管理を目的とした研修プロジェクトである TNT 研修会に積極的に参加し、ライセンスの習得を行っています。また、外科的疾患に対する知識を深めるため教育集会などを病棟中心に定期的を開催しています。

(文責：消化器外科 山田兼史)

診療部－整形外科－

令和3年度は藤本医師1名の診療体制であった。

長崎大学病院から月・水曜日に各1名の応援体制であった。

手術は61例で、大腿骨頸部骨折が主であった。

入院1日平均患者数は14.1人と、昨年度の16.1人より減少していた。

外来1日平均患者数は13.4人と、昨年度の15.8人より減少していた。

また、大きな医療事故はなかった。

(文責：整形外科 藤本勝也)

診療部－総合診療内科

■診療科の特色

当科は2019年6月に新設された診療科です。科のモットーとしては、フットワークを軽く、全体を見渡しながらか、現場ニーズに合わせた診療を心がけています。診療科にかかわらず内科全般の診療をおこなっています。特に高齢者人口の増加に伴い、複数疾患を抱える患者さんが増加し、このような患者さんの診療、問題解決を得意としています。その他原因のわからない発熱、体重減少といった診断の確定していない患者さんへの診療も行います。院内感染対策チームへ参加し、感染症対策への取り組みを行っています。

■スタッフ

○常勤 2名

専攻医 1名（2020年度4月より）

○小児科兼任常勤 1名

■教育、研修

○専門医

日本内科学会 総合内科専門医 1名

日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医 1名

○認定医

日本内科学会 認定内科医 2名

日本医師会 認定産業医 1名

■入院診療実績

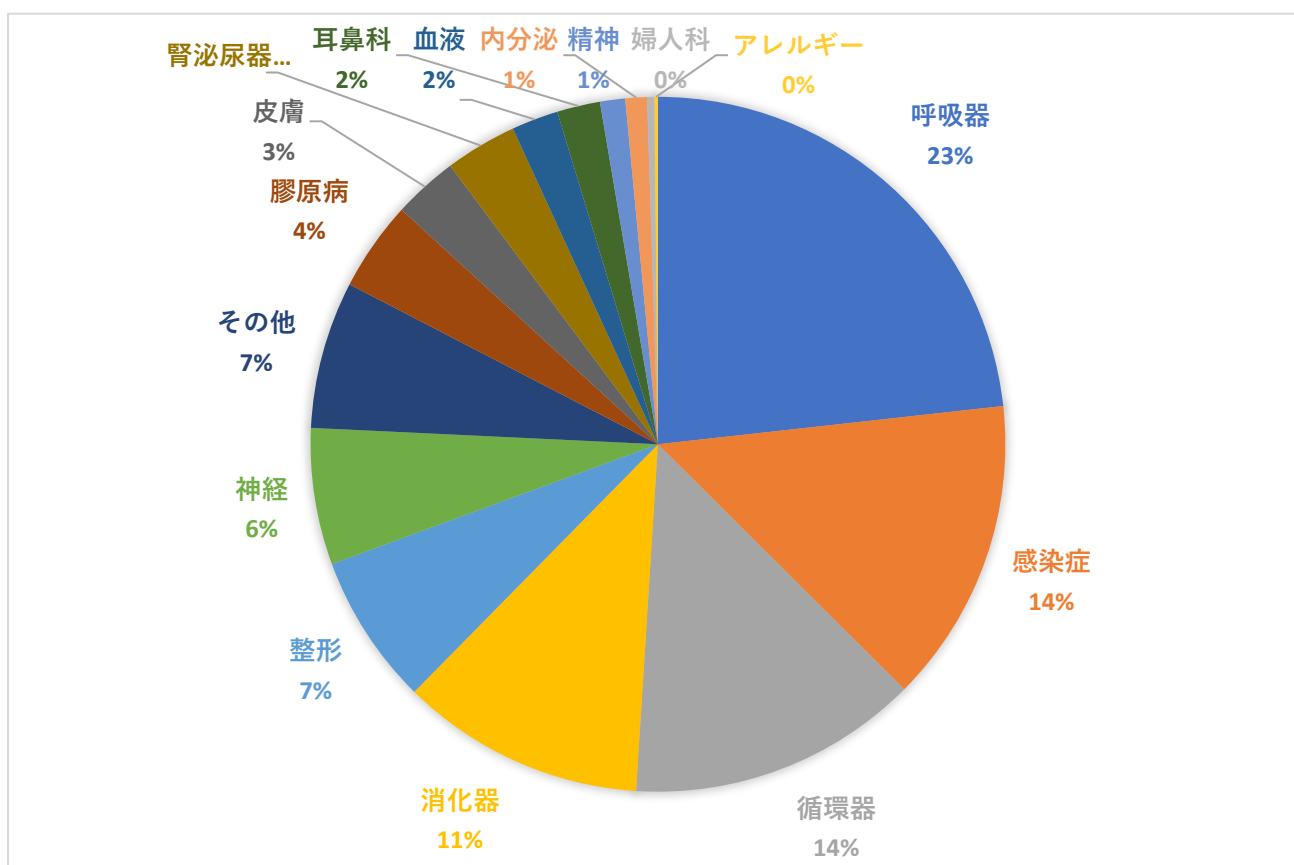
○2021 年度入院患者数（月別患者数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
47	40	93	53	48	55	34	53	47	32	33	37

（医事課データ参照）

○2021 年度入院患者の内訳

（退院サマリーデータより作成 合計 598 名、転科症例含む、内訳は%で表示）



入院患者の疾患内訳は、今年度も呼吸器、感染症を中心に診療を行いました。診療分野は多岐にわたっています。今年度も COVID19 感染症患者の入院治療を行いました。また、上記入院患者に加え、整形外科、外科、皮膚科で入院されている患者さんで内科疾患のサポートが必要な場合、JNPさんと協力のもと併診を継続して行っています。

■ 外来診療実績

地域連携室を介し紹介状を持参される患者さん、当日紹介状を持たずに受診される患者さんの初診外来の役割を担っています。また COVID19 感染症流行拡大に伴い旧 6 病棟に発熱外来を設置しており、当院を受診される発熱患者の窓口として発熱患者の初療を継続しておこなっています。

■ 発熱外来患

発熱外来は、昨年度同様に小児科兼任で小森医師を中心に小児、成人発熱患者の外来初療を担っていただきました。（救急車対応も含む）成人発熱患者で入院が必要な場合には、当科で診療を引き継ぐような方法で診療を行っていました。

■ 将来への展望

新型コロナウイルス感染の流行は未だ持続しており、発熱外来の維持と同外来からの入院患者を中心に診療を継続して行っています。今後も高齢者の外来受診、入院が見込まれることから、複数疾患、多臓器にまたがる疾患に柔軟に対応できる当科の能力を生かし診療を行っていきます。COVID19 感染症の入院患者についても、継続して診療を担ってきます。

年齢や背景疾患を考えながら今後のケアの方針（アドバンスケアプランニング）、またポリファーマシー（薬剤の多剤内服）問題に対し薬剤部と連携を行うことを継続して行っています。

院内感染対策に関連し、今年度より抗菌薬適正使用支援チームが発足し、抗菌薬が適切に使用されるように管理支援をおこなっていきます。

長崎医療センター総合診療科から協力依頼のあった多施設共同研究は継続して行っています。

■ 研究実績

○ 競争的研究資金の獲得

なし

○原著論文

Horai Y, Otsuka M, Kawahara C, Iwanaga N, Yamasaki Y, Watanobe T, Yasui J, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Mori H, Izumi Y, Kawakami A. Clinical Analysis of Gender and Pre-Existing Diabetes Mellitus in Patients With Polymyalgia Rheumatica: A Retrospective Study in a Japanese Population. Mod Rheumatol. 2022

Feb 3;roac012. doi: 10.1093/mr/roac012.

○学会発表

○松本学 川原知瑛子 大野直義

日本内科学会第 335 回九州地方会 経鼻胃管症候群が疑われた両側声帯麻痺の一例

(文責：総合診療内科 大野直義)

診療部－小児科

■診療科の特色

小児科では、15歳未満（中学生以下）の患者の診療を行っている。

東彼地区は小児の医療施設が少ないこともあり、地域の小児医療を展開している。

診療医師がひとりであり、入院治療・夜間診療は行っていない。

■外来診療実績（2020/4/1～2021/3/31）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小児一般	183	114	171	173	127	131	187	141	150	112	122	109
予防接種	35	37	46	46	51	30	32	62	32	24	19	25
乳児健診	3	11	14	6	4	7	3	7	5	4	3	2

（文責：小児科 小森一広）

診療部－皮膚科

1. 診療科の特色

当診療科では患者様の皮膚一般の診療を行なっています。近隣の開業医の先生方からのご紹介を中心に重症アトピー性皮膚炎などの湿疹皮膚炎群、コントロール不良の尋常性乾癬患者への外用、内服、光線治療を施行しています。入院治療としまして皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍の手術、蜂窩織炎、带状疱疹等の皮膚感染症に対する治療も施行しています。また、院内では他科入院中の患者様の皮膚真菌症、褥瘡、薬疹、点滴漏れなどの診療依頼がありセーフティネット的な役割を担っています。これからも当科は地域医療、院内診療の円滑化のため尽力する所存です。

2. 入院診療実績

入院総数	90 件
平均在院日数	22.6 日(一般病棟 : 10.1 日)

外来光線数

179 件(340 点/回)

手術件数

外来 : 73 件

入院 : 64 件

3. 学会発表

11Th World Congress on Itch Voluntary movement may be involved with a large part of provoking itch: what we learned from adult case with atopic dermatitis accompanied by amyotrophic lateral sclerosis. 2021/10/22

4. 論文

Kiyohara T, Fukudome T, Kamio Y, Koike Y, Murota H. Clinical Course of Atopic Dermatitis in an Adult with Amyotrophic Lateral Sclerosis: Aetiological

Implications of Voluntary Movements and Dermatitis Severity. Acta Derm Venereol.2022 Feb 8;102:adv00644.

(文責：皮膚科 清原龍士)

看護部－理念・基本方針－

【理念】

私たちは“よりよく生きる”を支える看護を提供いたします

【基本方針】

1. 患者に信頼される安全で安心な看護を提供します
2. 知識・技術・人格を磨き、自律し実践できる看護師を育成します
3. 各医療チームと協働し、患者中心のチーム医療を推進します
4. 看護・教育・研究を通して地域に貢献します
5. 組織の一員として病院経営に参画します

看護部-目標評価-

看護部長 岡 ルミ

【スローガン】

看護の原点にかえる ～考える・伝える・確認する・行動する～

【目標】

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

【評価】

目標1・3については看護師長会による「看護管理能力向上」「働き方改革・業務改善推進」「看護体制強化」「倫理観醸成推進」の4つのグループを作り活動した。患者のよりよく生きるを支える看護、安心・安全な看護の提供のため、固定チーム体制の定着に取り組んできた。各部署チーム目標の立案の支援や全体チームリーダー会の内容把握と支援を行い、少しずつ固定チームナーシングの体制が整ってきている。

また、看護の質向上のためには部署全体で「倫理」を日々の看護実践の中に身近にあるものとして捉えることができるよう、倫理観の醸成を図る必要がある。日々の「もやっとすること」を4分割シートに組み入れた「もやっとシート」を活用し、全部署月に1～2回倫理カンファレンスを開催することができた。しかし、検討した内容が看護計画に反映されていないなど、実践につながっていない事例もあった。倫理観の醸成については、倫理感性尺度などを用い、客観的評価を行うことも必要であると考えます。

看護師長・副看護師長はコンピテンシー・モデルを用いた事例検討、経験学習ノートを活用した面談にて、自己の強みや弱みを自覚し、意図したコンピテンシーを活用できるようになってきた。今後も継続して意図的に活用することで、部署の目標達成だけでなく、自律した人材の育成につながれることを期待している。

目標2については、看護師長を中心にベッドコントロールを行った。令和4年3月に病棟再編を行い、急性期一般病棟と地域包括ケア病棟を円滑に運用できるよう、今後も医師や経営企画室と協働しながら取り組んでいく必要がある。

看護部－3階病棟－

病棟師長名 蛭原 勇治

基本方針

1. 入院時より退院後の生活を意識した個別性のある患者・家族指導を実施します
2. 患者、家族が入院生活に満足できるよう、基本的なことを確実に実施し、清潔ケアを徹底します
3. 学習及び学習支援を行い看護職者として常に成長し続けます

目標

1. 経年に関係なく統一した同じレベルの看護の提供
2. 看護職者としての倫理観性の醸成
3. 入院時から退院を見据えた退院支援、患者・家族指導の実施
4. タスクシェアリングと業務改善を推進し、病棟の特殊性に対応できる勤務時間の検討

I. 病床数構成 総病床数：60床

外科、循環器内科、脳神経外科、整形外科、消化器内科、代謝内科、皮膚科

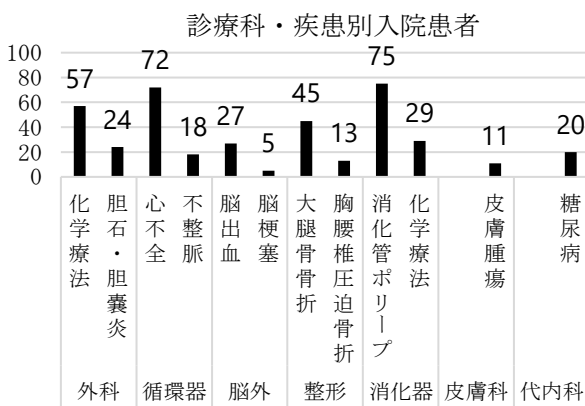
II. 患者の動向（2021年度）

入院患者数	705名
一日平均患者数	50.53人
平均在院日数	20.76日
平均年齢	74.6歳
病床利用率	84.3%
CP使用率	27.4%
看護必要度	32.02%
手術件数	251件
化学療法	94件

Ⅲ. 看護職員数（4/1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	3名
看護師	23名
看護助手	1名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



Ⅴ. 看護

目標 1. 学習会やシュミレーションを実施し経験年数に関係なく誰でも必要な看護が提供できるよう、知識や技術習得に努めた。また、クリティカルパスや処置手順の見直しを実施し、統一した看護が提供できるよう取り組んだ。

目標 2. 倫理カンファレンスを実施し、医療・看護における倫理について考える機会を定期的に設けた。それぞれの立場で考え、今後どのようにしていくかという事まで検討することができた。今後は多職種でのカンファレンス実施や看護計画への追加を行っていく。

目標 3. 医師や地域連携室と情報を共有し、必要な支援や方向性の確認を行った。また、急性期の患者だけでなく、ターミナル期にある患者の緩和ケアや在宅支援について、医師とともに意思決定支援について考える機会を設けた。チームカンファレンスを定着させ、受け持ち看護師やチームを中心とした患者、家族との意図的な関わりを行った。心不全や糖尿病など繰り返し入院する患者に対しては、多職種で連携し、退院後の生活を見据えた患者・家族指導や心臓リハビリを積極的に行うことができた。

目標 4. 業務改善を積極的に行い、業務の効率化を行った。急性期の病棟として、病棟の状況に合った勤務時間の検討をスタッフと共に行い、夜勤時間の短縮について試行的導入を行うことができた。引き続き病棟の状況に合った勤務時間や業務の見直しを継続していく。

Ⅵ. 看護研究・学会発表

なし

看護部－4 階病棟－

病棟師長名 穎川 俊也

基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質の向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. 固定チームナーシングを定着させ、患者さんの「自分はどうしたい」、家族の「患者にこうしてあげたい」を実現させる退院支援・看護の提供ができる
2. 病床利用率 93%以上(51 床以上)、在宅復帰率 70%、地域包括ケア看護必要度評価 14%を意識した病床管理ができる
3. 業務内容の見直しを行い、業務改善の推進と業務の効率化を図る

I. 病床数構成 総病床数：55 床

II. 患者の動向（2021 年度）

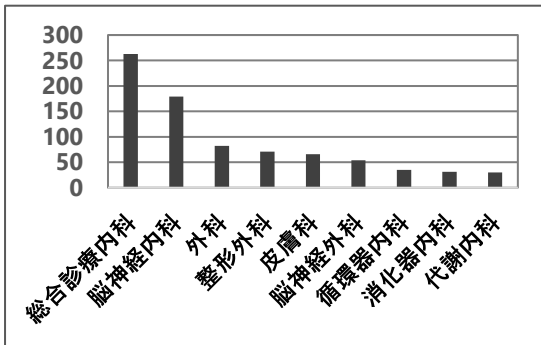
入院患者数	29 名
一日平均患者数	53.1 名
平均在院日数	22.9 日
平均年齢	78.6 歳
病床利用率	96.6%
CP 使用率	20.9%
看護必要度	21.9%
在宅復帰率	85.0%

III. 看護職員数（2021 年 4/1 現在数）

看護師長	1 名
副看護師長	2 名

看護師	22名
看護助手	2名

IV. 主な疾患・治療・検査



V. 看護

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供

副看護師長、各チームリーダーを中心に年間目標を立案し定着に向けて取り組みを行った。患者、家族の意向確認については転入時に退院先や希望の確認を行い、チーム内・チーム間で情報共有ができるように記載場所・内容の統一を行った。転入後1週間以内にカンファレンスを実施し患者や家族の希望についても確認を行った。

2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画

地域連携室、一般病棟看護師長と毎日病床会議を実施。地域連携室やリハビリなどと週に1回多職種カンファレンスを開催、退院困難事例などの検討を行った。病床利用率 96.6%、在宅復帰率 85.9%、地域包括ケア看護必要度評価は 21.9%であった。

3. 業務改善の推進と業務の効率化

6月、12月に業務量調査を実施。タイムリーな看護記録、看護ケアの業務調整は継続して取り組んでいた。9月より「プライマリータイム」を導入し、受持ち看護師が意図的に患者や家族と退院先や今後の希望について検討を行う時間の確保を行い、受持ち看護師の「意図的に家族と関わる」という意識向上に繋がっている。

VI. 看護研究・学会発表

1. 穎川俊也

日本医療マネジメント学会

第19回九州・山口連合大会

業務量調査を活用した看護業務の可視化の効果

看護部－5階病棟－

病棟看護師長 藤並 慎之介

基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質向上に寄与できる自立した人材の育成

目標

1. 脳神経内科患者に信頼される、やさしく、丁寧な看護が提供できる
2. 患者を第一に思い、基本的ルール・決まり事を守ることができる

I. 病床数構成

総病床数：55床

脳神経内科、脳神経外科、総合診療内科、消化器内科、皮膚科他

II. 患者の動向（2021年度）

入院患者数	558名
1日平均患者数	46.9名
平均在院日数	24.1日
退院患者数	597名
死亡患者数	39名
病床利用率	85.4%
病床稼働率	88.3%
看護必要度	28.2%
手術件数	20件
レスパイト入院（平均）	4名/月
インシデント総数	97件
インシデント平均	8.5件/月
転倒・転落件数	44件

Ⅲ. 看護職員数（年度はじめの 4/1 現在数）

看護師長	1	名
副看護師長	2	名
看護師	25	名
看護助手	2	名
メディカルサポーター	1	名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査

（主要疾患）PD、ALS、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、重症筋無力症、脳梗塞、てんかん、誤嚥性肺炎、尿路感染症等

（治療）DBS 調整、IPG 交換術、DBS 埋込術、

ラジカット療法（ALS）、ヴェノグロブリン療法（CIDP）、リハビリ（運動療法・言語療法）等

（検査）腰椎穿刺、筋電図、心筋シンチ、

脳波モニタリング、ダットスキャン等

Ⅴ. 看護

1. 固定チームナーシング

2チーム体制で導入2年目となり、チーム内での情報共有が効率的に図れるようになってきた。反面、チーム内での患者カンファレンスや看護計画の評価、充実化は課題である。

転倒リスクが高い患者が多く、後期では医療安全-自部署ラウンドの定着をはかり環境調整の充実を図った。また、パーキンソン病患者への専用パンフレットを用いた指導による効果を研究的に取り組んでいる。

2. 各勤務帯の業務内容の見直し・検討

業務量調査を6月、12月の2回実施。認知症の患者が多く、介護度も高いことからケアや介助に時間を要している。

看護記録は昨年よりもタイムリーにできつつあるが、時間外勤務の主な要因となっている。タスクシェアリングの促進として看護補助者による看護ケア（特に清潔ケア、食事介助）への参画を図る等の取り組みを行い、看護業務の役割分担を進めている。

2022年3月24日にて、5階病棟は病棟再編となった。脳神経内科・神経筋難病看護は多部署に引き継いでいく。

Ⅵ. 看護研究・学会発表

なし

看護部－6階病棟－

病棟師長名 中村 佳永子

基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. 患者・家族の思いに寄り添い、患者家族から得た情報を共有し、根拠に基づいた看護を行うことができる
2. 経営改善において自分たちができることを理解し、行動できる
3. 感染症管理、高齢者看護、急変時の対応など病棟で求められる知識や技術を習得できる体制をつくる

I. 病床数構成 総病床数： 55 床

一般病床 50 床 結核病床 5 床

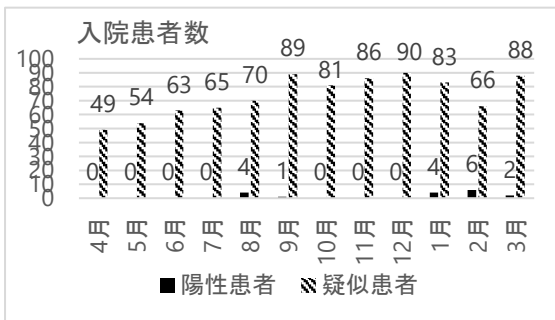
II. 患者の動向（ 2021 年度）

入院患者数	827 名
一日平均患者数	6.9 名
平均在院日数	4.4 日
平均年齢	77.2 歳
病床利用率	12.9%
CP 使用率	0%
看護必要度	39.7%
新型コロナ陽性患者数	19 名
新型コロナ疑似患者数	801 名

Ⅲ. 看護職員数（2021 年度 4/1 現在数）

看護師長	1 名
副看護師長	2 名
看護師	24 名
業務技術員	2 名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



新型コロナウイルス陽性患者・疑似患者の受け入れ病棟として、発熱、感冒症状患者受け入れ専門病棟となっている。主な疾患として、肺炎、尿路感染、胆管炎、腎盂腎炎、蜂窩織炎、心不全、結核疑いの受け入れも行っている。PCR、TRC を実施している。

Ⅴ. 看護

1. 固定チームナーシングにより、チームで患者に関わり、患者に安全・安楽な看護の提供ができるよう体制を整えた。発熱外来時に、患者・家族の思いを確認し、安心して療養生活を送ることができるようにした。面会禁止のため、検査結果や転棟連絡時に担当看護師から患者の様子を伝えた。患者・家族の思いを転棟先病棟へ引き継ぎ、継続した看護を提供できるように努めた。
2. 業務量調査やタスクシェアリングを行い、看護補助者の看護ケア業務の見直しを行った。また、残務確認表を用いて残務を明確にし、業務の再分配と次の勤務者への引き継ぎを行った。
3. 新型コロナウイルス感染症患者を継続的に受け入れ、手指消毒を確実に実施し、感染拡大防止に努めた。ICT や総合診療内科医師と連携し、感染管理や対応について話し合い、感染管理の理解と実践に繋がった。

Ⅵ. 看護研究・学会発表

中村佳永子、高橋奈央、森紗耶佳、大平千絵、福本佐百合、白石早苗

第 43 回 長崎県地域医療研究会（紙面開催）

感染症受け入れ病棟における新型コロナ

ウイルス感染症対策について

看護部－8 病棟－

病棟師長 酒井 真澄

基本方針

病院が生活の場所であることを理解し、その人らしさを尊重し、個々の機能に応じた個別性のある看護（介護）を提供しよう。

目標

1. 倫理観、看護観をしっかり持ち、根拠ある看護を提供できる
2. 笑顔で働ける職場環境を作る。
3. 専門領域の知識・技術を深め、自ら学ぶことができる人材を育成する。

I. 病床数構成 総病床数：60 床

神経筋難病 60 床

II. 患者の動向（2021 年度）

入院患者数	3 名
一日平均患者数	58.6 名
平均年齢	63.0 歳
病床利用率	96.8%
手術件数	2 件
人工呼吸器使用数	42.7 台

III. 看護職員数（年度はじめの 4/1 現在数）

看護師長	1 名
副看護師長	2 名
看護師	36 名
療養介助専門員	15 名
看護助手	1 名

IV. 主な疾患・治療・検査

筋委縮側索硬化症：14名

筋ジストロフィー：26名

パーキンソン病：5名

多系統萎縮症：2名

遠位性ミオパチー：2名

進行性核上麻痺：2名

その他：脳梗塞後遺症、遺伝性小脳性運動失調症、ウェルドニヒ・ホフマン病、ミトコンドリア心筋症、多発性硬化症、

V. 看護

1. 倫理観、看護観をしっかり持ち、根拠ある看護を提供できる

・年に2回接遇チェックリストを用いて自己、他者評価を実施した。スタッフ間で気になる言動は互いに注意できる、風通しのよい職場風土の醸成につなげている。

・緩和ケア認定看護師を中心に、意思決定やACPの介入するタイミングを大事にし、患者が話したい、聞きたいと思った時に話せる環境を作った。ずっと気管切開はしないと決めていた患者が頻回に呼吸苦を感じるようになった時、『孫の顔を見るまでは生きていたい』という思いを家族に話せないと訴える患者への介入など、実践件数は少ないが、患者の状態の変化に早期に気づき、患者の思いに寄り添った看護の提供をこころがけている。

・人工呼吸に関するインシデントは3件/年あった。患者のベッドサイドを離れる際の指差し呼称確認の実施を徹底すること、人工呼吸器の知識・技術チェックを2年継続して実施することでインシデントの件数は減少している。

2. 笑顔で働ける職場環境を作る。

・観察項目を活用し、看護記録の重複記録をなくし、記録に係る時間を短縮できるよう取り組んだ。看護師一人当たりの記録に係る時間を取組後は8分17秒短縮することができた。

・QC活動で「清潔・効果的な口腔ケアの徹底」に取り組んだ。口腔ケアについて学習会を実施し、患者の口腔の状態に応じたケア物品を選択し、物品の適切な管理ができるようになった。

3. 専門領域の知識・技術を深め、自ら学ぶことができる人材を育成する。

・人工呼吸器学習プログラムを作成し、根拠に基づいた知識と技術を確実に習得できるような体制を整えている。

VI. 看護研究・学会発表

なし

看護部－手術・中材－

看護師長 松尾 多美子

基本方針

- 1.各部署と連携を図り、安全で質の高い手術医療を提供する
- 2.安全で専門性の高い内視鏡検査・治療を提供する
- 3.院内で使用する医療器材を管理し、安全で確実な物品供給を行う

目標

- 1.患者に必要な医療が提供できるように、専門知識と技術を高め、対象に合わせた適切な看護を提供する
- 2.医療器材の適正な洗浄消毒滅菌と保管管理を行い、院内で使用される医療器材を安全で確実に供給する

I. 病床数構成 手術室 3 室（BCR1 室）

内視鏡室 2 室

II. 患者の動向

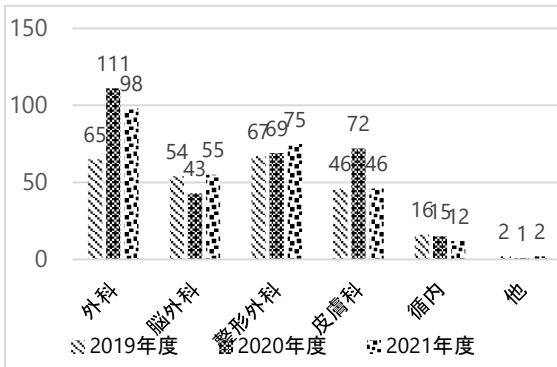
月平均手術数	24.1 件
手術平均年齢	70.5 歳
緊急手術件数	37 件
麻酔科麻酔件数	80 件
自家麻酔・局麻症例数	208 件
月平均内視鏡検査数	82 件
緊急内視鏡検査数	63 件

III. 看護職員数（4/1 現在数）

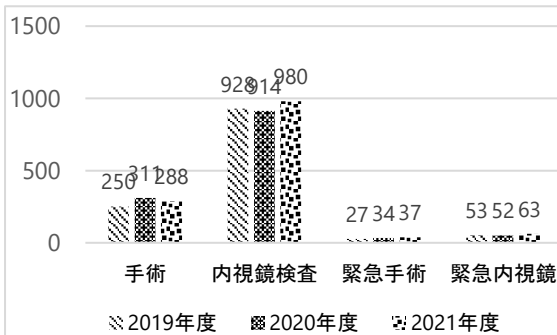
看護師長	1 名
副看護師長	1 名
看護師	7 名
非常勤看護師	1 名

IV. 手術・検査実施件数

1. 診療科別手術件数推移



2. 手術・検査件数推移



V. 看護

1. 手順書を確認することにより個人差なく手術看護、検査介助が行うことが出来る

1) 手術のマニュアルに外回り業務を追加して対応力の標準化を図っている。症例の少ない手術や検査は見学やシミュレーションを行い、緊急時の対応に備えている

2. 専門知識の維持更新により、看護実践力を向上に努める

1) 感染防止の為、院外研修への参加が出来ず、全員で2回周術期の体温管理のWEB研修を受講した。部署学習会は物品管理、感染管理など専門知識の習得を図った。

3. 使用頻度に合わせた無駄のない物品・薬品の定数管理を行う

1) SPD係、薬品係、各診療科担当を中心に、使用頻度に合わせて定数の見直し、使用期限前の交換や使用促進を行っている。今年度は外科医師に合わせた物品の導入が複数あり、今後適正在庫数を調整していく予定である

4. 自部署業務以外は他部署の応援を行い、看護ケア提供など看護業務の補完体制をとる

1) 自部署業務以外は積極的に病棟応援を行い、入院患者の看護ケアの充実に貢献している。可能な範囲で情報収集や部屋準備を夜勤者が協力し、応援時間の確保を図っている。

夜勤勤務も救急外来対応以外の時間は病棟の患者ケアの応援を行っている

VI. 看護研究・学会発表

今年度なし

看護部－外来－

看護師長名 毛利 由加

基本方針

1. 予約診療を基本とし、各診療科・地域連携室との連絡・調整を密に行い迅速でスムーズな診療が受けられるよう配慮する。
2. 常に患者へ目と心に向け、細やかな対応による診療介助を行い、患者の不安や苦痛軽減に努める。
3. 患者のプライバシーが守られるよう、環境への配慮・個人に関する情報の管理を徹底する。
4. 患者に安心して気持ちよく受診していただけるよう清潔で安全な環境整備に努める。
5. 外来で行われる検査や手術についてクリティカルパスやパンフレットを使用し、患者の十分な理解と納得が得られ、安全で確実な看護実践を目指す。
6. ネットワークを活用し地域に根差した質の高い医療の提供を目指す。

目標

1. 各科診療科マニュアルの活用・修正およびクリティカルパスの作成を行い、ケアの標準化を図る。
2. 倫理感性の醸成および意思決定支援の推進を図る。
3. 他部門との連携を強化し、在宅支援、継続看護につなげる。
4. 医療安全に対する意識の向上と、リスク感性の醸成を図る。
5. タスクシェアリングの推進及び、5S 活動、QC 活動による職場環境の改善を図る。

I. 診療科構成 脳神経内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、総合診療内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、小児科、放射線科、歯科、乳腺外科、呼吸器内科

II. 患者の動向（2021 年度）

1 日平均外来患者数	123 名
新患者数（平均）	346.8 名
延患者数（平均）	2479 名
紹介患者数（平均）	194.1 名

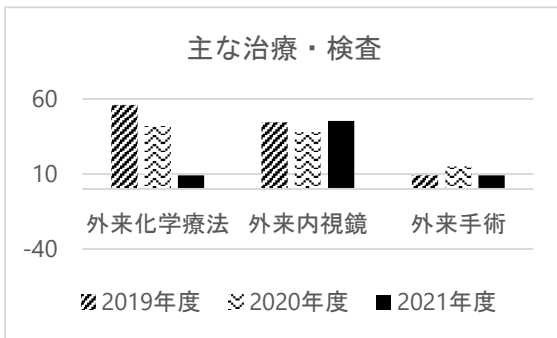
逆紹介患者数（平均）	252.9名
------------	--------

救急患者数（平均）	130名
救急車台数（平均）	55件

Ⅲ. 看護職員数（4/1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	8名
非常勤看護師	4名
外来クラーク	3名
看護助手	1名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



外来化学療法（平均）	0.75件
外来内視鏡（平均）	45.3件
外来手術（合計）	9件
皮膚生検（合計）	131件

Ⅴ. 看護

1. 各診療科手順の追加・修正し、外来化学療法、外来検査について3件のクリティカルパスを作成した。
2. 在宅支援や意思決定支援について1~2件/月の倫理カンファレンスを実施し、外来患者のケアの方向性について検討を行った。

3. 病棟依頼 2～5 件/月、通院患者の継続支援介入 20.5 件/月実施。退院後初回受診患者に退院後の生活状況確認を実施している。
4. インシデント発生件数 23 件、インシデントカンファレンス 100%、SHELL 分析を 1 回実施し再発予防、体制強化に努めた。確認不足による事例が多く、指示実施、与薬時の 6R の徹底を行う。
5. 受付、電話対応のタスクシェアリングを実施した。5S 及び QC 活動により、物品・定数管理、見直しを行った。

VI. 看護研究・学会発表

なし

看護部－訪問看護ステーション－

浦部 優子

基本方針

1. 利用者・ご家族の皆様の思いを尊重し、安心・安全で良質な訪問看護を提供します
2. 養気軒の精神で、利用者・ご家族中心の全人的ケアを提供します
3. 利用者・ご家族の権利・維持を尊重し、同意に基づき良質な訪問看護を提供します
4. 常に知識・技術・人格を磨き、自己研鑽に努め、明るく温かで安心がもてる看護を提供します
5. 医療・保健・福祉など地域関係機関との細やかな情報交換に努め、地域に開かれたステーションを目指します

目標

1. 病状を踏まえた対応と今後の病状を予測した行動が取れ、利用者家族の反応を確認しながら看護の提供ができる
2. さくらそう運営安定化に向けた経営参画ができる
3. 訪問看護知識技術の向上に努め、倫理観を持ち在宅での看護を提供できる

I. 利用者総数 39 名

(指定申請)

指定訪問看護事業者・介護保険指定事業者難病医療費助成・生活保護医療機関指定

指定自立支援・労災保険指定訪問看護

II. 患者の動向 (2021 年度)

利用件数	2724 件
1 か月平均利用件数	227 件
1 か月平均利用者数	24 名
1 か月平均訪問看護件数	189 件
1 か月平均訪問リハビリ件数	38 件
新規利用者数	18 件
緊急訪問	8 件
死亡利用者数	7 件
退院時共同指導加算	7 件

退院時支援指導加算	3件
ターミナルケア	1件

Ⅲ. 看護職員数（4/1 現在数）

看護師長	1名
看護師（登録ナース）	8（6） 名
事務	1名
理学療法士・作業療法士	各1名

Ⅳ. 主な疾患

1. 悪性腫瘍（大腸癌、肺癌、胃癌、上顎癌）
2. 神経難病（パーキンソン病、多系統萎縮症）
3. 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）
4. 心疾患（慢性心不全、高血圧）
5. 呼吸器疾患（間質性肺炎、気管支喘息）
6. その他（糖尿病、認知症）

Ⅴ. 看護

1. 利用者の状態に合った計画の修正を見直し利用者、家族へ説明、同意を得た。今後予測される病状の説明、対応を行い病状の変化に対応した。病態生理や呼吸リハビリなど勉強会を開催した。
2. 訪問スケジュール調整、記録時間の確保を行うことで超過勤務が減少した。夜間の緊急訪問ではなく、病院受診をすすめ緊急訪問件数が減少した。訪問看護師と登録ナースで看護体制を強化し、新規、ターミナルの受け入れを積極的に行い訪問看護件数が増加した。2022年3月より登録ナースⅡ期を開始し更なる看護ケアの充実を図っていく。
3. 訪問看護に関する研修へ積極的に参加した。登録ナースを含めた勉強会や事例検討を実施し知識、技術の向上を図った。登録ナース3名は「退院支援に関する実践力向上研修」へ参加した。倫理カンファレンスを実施し、倫理観の育成をおこなった。

4. Ⅵ. 看護研究・学会発表

木口綾子

・令和3年度長崎県看護学術集会

「A 訪問看護ステーションにおける家族看護の勉強会の効果」

・第75回国立病院総合学術集会

「訪問看護師ステーションさくらそうの開設後から現在までの取り組みについて」

薬剤部－薬剤科－

薬剤部長 阪元 孝志

1. 概要

薬剤部目標は、①医薬品の適正使用及びチーム医療の推進（病棟薬剤業務の充実、薬剤管理指導、特にハイリスク薬及び麻薬服用患者への指導の充実、退院時薬剤情報管理指導件数の充実、外来患者に対する薬学的管理の充実）②医療安全の推進（ヒヤリ・ハット事例の収集と対応策の検討、疑義照会事例の収集及び情報共有並びにプリアロイド報告の推進）③病院経営への参画（後発医薬品の使用促進、医薬品在庫の適正化、退院時薬剤情報連携加算への取り組み、薬剤総合評価調整加算への取り組み、がん患者指導管理料「八」の算定）④臨床研究の推進（学会発表）を掲げ、業務改善・質の向上につながる取り組みを行った。

2. 調剤業務

（1）内用・外用

外来患者については、院外処方を原則としていることから、薬剤部では主に入院患者の調剤を行っている。当院は高齢の患者が多いことや難治性神経・筋疾患(神経難病と筋ジストロフィー等)病棟があることから、簡易懸濁法や一包化による調剤を積極的に行っている。医療安全に関しては、薬剤部のヒヤリ・ハット事例を分析し、複数規格医薬品、名称類似医薬品など取り違いのリスクが高い医薬品について、処方せん等の医薬品の規格の強調、医薬品名に色を着ける表示や医師がオーダ入力する際に注意喚起のメッセージが表示される工夫も実施している。

【処方せん枚数】

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
入院	29,306	24,956	20,382	22,642	24,382
外来院内	1,783	1,218	1,214	1,303	1,459
外来院外	21,807	20,971	22,220	19,418	18,814

（2）注射

注射薬は医療安全を推進する観点から、患者毎に一施用ごとの払い出しを行っている。また、取り揃え時と監査時のダブルチェックにより用法・用量等に加え投与速度及び配合変化等の確認を行っている。患者施用ごとの注射ラベル（バーコード付）を発行し、注射剤に添付して払い出ししており、実施時にバーコードによる認証を行うシス

テムとなっている。令和2年度は「取扱いに注意を要する薬剤マニュアル」を医療安全管理室と共同で作成、今年度は「病棟での向精神薬管理手順」の改訂を行った。

【注射せん枚数】

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
入院	41,435	31,223	23,310	25,657	27,904
外来	1,632	1,652	1,701	1,694	1,515

3. 製剤業務

業務として抗がん剤調製や特殊なTPN調製（中心静脈栄養）などの無菌調製および院内製剤を行っている。抗がん剤調製は、医療安全及び暴露防止の観点から、原則全て薬剤師が調製を行っている。抗がん剤のレジメンは外来化学療法委員会で承認されレジメン登録されたもののみ使用可能となっており、薬剤師による確認の他、システムで投与量及び休薬期間等のチェックを行っている。

【無菌調製件数】

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
抗がん剤	入院	217	100	74	99	83
	外来	66	39	59	35	10
TPN	入院	22	26	12	87	82

4. 医薬品情報管理業務

医薬品情報については、毎月厚生労働省から発刊される「医薬品・医療機器等安全性情報」を電子カルテの掲示板にて情報提供するとともに医薬品に関連する通知等についても必要に応じ情報提供している。2017年度よりプレアボイド報告を積極的に行うことを目標に取り組んでおり、報告した事例のうち、特に注意すべき事例の内容については情報共有を行っている。

【日本病院薬剤師会へのプレアボイド報告件数】

2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
58	59	56	27	40

5. 医薬品管理業務

医薬品の採用は薬事委員会で決定することとされており、1増1減を原則としている。後発医薬品への切り替えを推進しており、新しく発売される後発医薬品を積極的に薬事委員会に提案し切り替えを行った。2021年度は3品目を後発医薬品へ切り替え、購入額を約60万円削減できた。来年度においても高額な医薬品をはじめ新規に発売される後発医薬品について随時提案して、病院経営に貢献していきたい。

今年度はこれまでになく複数の製薬会社で医薬品回収および供給停止などが相次ぎ、その対応に苦慮した。患者に迷惑をかけることがないように日頃より情報のアンテナを張り、在庫管理を気に掛けていきたいと考える。

【医薬品採用品目数】

2020年度		2021年度	
内用薬	452（後発品：221）	内用薬	447（後発品：189）
外用薬	156（後発品：57）	外用薬	161（後発品：55）
注射薬	364（後発品：111）	注射薬	360（後発品：100）
合計	972（後発品：389）	合計	968（後発品：344）

6. 病棟業務および入院支援

病棟薬剤業務実施加算では、医師の負担軽減及びチーム医療の推進等に取り組んでいる。禁忌薬やアレルギー歴の確認、肝腎機能に応じた処方提案、持参薬に基づく当院処方の提案や処方薬に問題はないか確認を行っている。

薬剤管理指導では、主に患者が医薬品を服用した後の副作用モニタリング等を行っており、副作用に対する支持療法の処方提案、副作用を回避するための代替薬の提案、定期的な検査を必要とする薬剤に対して検査オーダーの提案などを行っている。特にハイリスク薬を服用する患者について、安全使用を念頭に実施してきた。退院時指導については、退院後の服薬管理に役立てられるよう今後も努めていきたい。

2018年度より、タスクシェアリングのひとつとして薬剤部が入院支援センターにおいて手術や観血的処置予定患者および造影検査予定患者の内服薬を把握し、中止する薬剤がないかどうかの確認を行い対応している。

【薬剤管理指導及び退院時薬剤情報管理指導件数】

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
薬剤管理指導 (ハイリスク薬)	4,694 (2,058)	4,598 (2,397)	4,115 (1,970)	4,425 (1,639)	4,977 (1,991)
退院時薬剤情報 管理指導	700	793	686	608	686

【入院支援センター薬剤師関与件数】

2019年	2020年	2021年
238	210	203

薬剤部－治験管理室－

薬剤部長 阪元 孝志

【概要】

当院の診療圏は、長崎県北部を中心に佐賀県西部地区まで広くカバーしている。また、県央地域保健医療圏の二次救急医療機関である。神経・筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（以下、ALS）、進行性筋ジストロフィー症等の神経疾患）に関する専門医療施設としての診療、循環器疾患等に関する専門的な診療を行っている。

【治験管理室体制】

臨床研究部長を治験管理責任者、薬剤部長を治験管理実務責任者、治験薬剤師（CRC）2名（併任）、治験看護師（CRC）1名（併任）、非常勤事務職員1名、会計担当1名を配置している。

治験手順書、治験審査委員会等を整備し、医師、看護師、コメディカルと連携を図り、実施率100%を目標に迅速で信頼できる治験を目指している。

	職名	氏名
治験管理室長（治験管理責任者）	臨床研究部長	福留 隆泰
治験事務局長（治験管理実務責任者）	薬剤部長	阪元 孝志
治験コーディネーター	薬剤師	神代 広平
	薬剤師	糸永 昇平
	看護師	岩崎 智子
治験事務	企画課長	出良 和之
	受託・申請書等事務	柴田 さやか

【治験実施状況】

治験の実施体制を2003年度より整え、神経・筋疾患の治験を中心に循環器内科、脳神経内科、脳神経外科の治験を積極的に受け入れてきた。2021年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染対策のため、様々な対応が必要とされる中、脳神経内科での新規治験の契約締結を行えたが、実施症例に結びつけることができなかった。定期的な被験者スクリーニングによる候補症例の選定を継続して行っていきたい。

2019 年度に契約を締結し進行中であった脳神経外科の「てんかん」領域の治験において、長期継続試験の契約を新たに締結し、2021 年度は追加実施症例を 2 症例依頼された。

近年、全体的な請求金額は減少傾向にあるものの、脳神経内科領域でも新たな治験の導入を目指すべく、現在も製薬会社からの情報収集に努めている。

		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
請求金額 (円)		3,652,179	2,433,386	2,653,088	2,252,646
新規	治験課題数	1	1	1	1
	契約症例数	1	1	1	1
	実施症例数	0	1	1	0
	実施率	0%	100%	100%	0%
継続	治験課題数	3	3	1	2
	契約症例数	9	4	1	4
	実施症例数	8	3	1	3
	実施率	89%	75%	100%	75%
合計		80%	80%	100%	60%

【臨床研究において積極的に行っていること】

当院は神経筋疾患では、基幹医療施設となっており、神経変性疾患（パーキンソン病及び類縁疾患、ALS、脊髄小脳変性症）や免疫性神経疾患（ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎など）の診療を積極的に行っている。

また、地域支援病院として、脳血管障害急性期、虚血性心疾患、高血圧症、高脂血症及び糖尿病などの生活習慣病、急性肺炎、呼吸不全の増悪などの患者の受け入れも多い。

【今後の方針】

より多くの新規課題取得を目指す必要があるため、本部より定期的に行われている治験参加意向調査アンケートへの積極的な回答を継続するとともに、当院で実施可能な課題の有無を製薬企業などに確認していきたいと考えている。昨年度契約を行った神経内科領域での治験において被験者スクリーニングによる候補症例の選定を継続しつつ、既存の契約課題を維持し、今後も実施率 100%を目指し、1 例でも多くの症例登録に努めていきたい。

診療放射線科

診療放射線技師長 中尾 徹弘

【概要】

診療放射線科は、医師 2 名、診療放射線技師 6 名と助手 1 名で構成されており、CT・MRI の最新の撮影装置を用いた画像診断や核医学検査等の業務を行っている。放射線技師が 2 月より 1 名病休となったため人員配置に苦慮したが、皆の協力のおかげで調整することができた。放射線機器については、一般撮影で使用する CR や読取装置が導入より 10 年以上経過しており、サポート終了のため一部修理できない部品もあり、早急な機器更新が望まれる。コンプライアンスや医療安全を考慮した保守点検を実施し、且つメーカーと交渉することで修理費用等のコスト削減に努め、病院経営に貢献していきたい。

大型医療機器の稼働状況を考慮すると、病院全体の患者数の減少からか件数が伸び悩んでおり、今後は地域連携病院との共同利用を促進することが課題となる。

【異動】

4 月 1 日付

転出	有満 誠（副診療放射線技師長）	→	指宿医療センターへ（副診療放射線技師長）
	大山 康裕（主任診療放射線技師）	→	小倉医療センターへ（主任診療放射線技師）
転入	麥田 計介（副診療放射線技師長）	←	指宿医療センターから（副診療放射線技師長）
	甲 卓馬（主任診療放射線技師）	←	熊本南病院から（診療放射線技師）

【資格】

第 1 種放射線取扱主任者 2 名

第 1 種作業環境測定士 2 名

衛生工学衛生管理者 1 名

検診マンモグラフィー撮影認定技師 2 名

X 線 CT 認定技師 1 名

救急撮影認定技師 1 名

【業績】

学会発表、論文業績等なし

【件数実績】（共同利用件数）

年度	CT	MR	RI	一般撮影	透視
R1	3730 (321)	2674 (694)	163 (9)	6221	93
R2	3432 (267)	2380 (581)	123 (3)	6389	142
R3	3913 (329)	2357 (623)	144(12)	6203	158

臨床検査

検査技師長 石原 幸治

臨床検査科は、検体検査部門・細菌検査部門・生理検査部門の3部門に分かれ、臨床検査科長以下、技師長（1名）、副技師長（1名）、主任技師（3名）、技師（4名）、計9名のスタッフで業務を行っている。令和3年度は人事異動で3名の技師（副技師長、主任技師、技師）が入れ替わったが、異動や勤務割の影響を受けないように部署間のフォロー体制を強化している。

検体検査では精度の高いデータを迅速に提供することに努め、公的（日本医師会、長崎県医師会）な外部精度管理調査をはじめ、メーカー主催サーベイ等へも積極的に参加している。検査件数は検体・生理検査総件数の合計が313,464件で、対前年度（302,955件）比は103%であった。令和3年度3月には多項目自動血球分析装置及び血液凝固分析装置が更新された。

細菌検査では、細菌同定・感受性検査、また各種迅速検査を行っているが、令和3年度は新型コロナウイルスPCR検査のための体制を整備し、院内運用開始2年目となった。PCR装置も2台に増設となり、患者以外に行政・職員の検査も行なっている。平日は午前と午後1回ずつ検査を実施し迅速かつ正確な結果報告を行っている。また検査科スタッフ全員で土日も含め検査対応できる体制をとった。PCR院内運用を開始した令和2年11月には77件/月であった件数が、現在では1000～1500件/月のPCR検査件数となっている。

生理検査部門では心電図・呼吸機能検査を始めとする一般生理検査をはじめ、各種生理検査を行っている。超音波（エコー）の検査ではスタッフ全員が認定資格を取得しており、心臓・消化器をはじめ各種臓器の超音波検査に対応している。また脳波検査では長時間ビデオ脳波同時記録検査（ビデオモニタリング脳波）を行い、検査科長と連携を取りながら検査を行っている。また令和2年度に導入したCPX（心肺運動負荷試験）については、心臓リハビリ検査にチーム医療の一員として加わり検査を行なっている。また令和2年度末に超音波診断装置が増設され、新しい領域での検査も開始した。

学術的な面では、令和3年度もコロナ禍の影響で、各種研修会・学会（集合形式）の開催がなく、各種認定資格受験条件に制限が加わるなど厳しい状況であった。しかしWeb形式になることで、より参加しやすい状況となり、各種学会・研修会等に積極的に参加し自己研鑽に努めた。

[部門別報告]

（検体検査部門）

検体検査部門に於いては、生化学・血液検査を始めとする検体検査総件数に於いて306,242件で、対前年度（295,960件）比103%であった。ルーチン検査を始め、精度管理業務、日々の各分析装置のメンテナンス作業を行い、他部門とのフォロー体制を構築しながら、迅速な結果報告を行なうための体制づくりを行った。検査

データの担保となる、外部精度管理調査に於いては、日本医師会精度管理調査 98.7 点と良好であった。また長崎県医師会精度管理調査では検体・輸血・細菌・一般検査に参加したが、尿沈査フォトサーベイの一部で誤りがあったため、昨年度整備された顕微鏡専用カメラ・モニタを活用しながら血液象・尿沈渣などの形態検査の勉強会や定期的な目合わせなどを行い、スタッフ間のスキル向上にとり組んでいく。

令和 3 年度は多項目自動血球分析装置及び血液凝固分析装置、血中アンモニア測定装置が更新された（ともに令和 4 年 3 月）。令和 4 年度は更新機器の操作トレーニング、メンテナンス講習の実施、他免疫分析装置をはじめ、血液ガス・血糖関連機器・血液型・輸血検査機器等、老朽化した機器のメンテナンス作業を充実させ、より良質な検査データを迅速に報告できるよう取り組んでいく。

現在 1 階採血室に配置してある採血管準備装置については、令和 4 年度に更新機器が納入予定である。翌日の採血管準備についても、採血業務支援として今以上に迅速に対応していきたい。

（細菌検査部門）

細菌検査に於いては総件数 10,326 件と対前年度（4,499 件）比 230%と著しく増加した。総合内科の医師 3 名が全て常勤となり、血液培養をはじめとする検査依頼数が増加した事が理由の一つに挙げられる。ルーチン検査では細菌同定・感受性検査、またインフルエンザを始めとする迅速検査、また日常業務の他に ICT 活動・加算カンファ等へ参画し、院内感染対策にもチーム医療の一員として取り組んだ。

新型コロナウイルス PCR 検査は、毎日午前・午後と 2 回の検査を行っている。他部門の技師もサポートに入り、皆で協力しながら運用している。休日においても検査依頼があれば迅速に対応している。また TRC 装置（遺伝子検査装置）も令和 3 年 1 月に導入され、新型コロナウイルス検査の他に、抗酸菌（TB/MAC）の検査が可能となり、従来は外部委託検査に提出していた検査を院内実施とした。これにより受付から 1 時間程度で結果報告可能となり、診療に貢献できているものと思われる。血液培養については、総合診療内科をはじめ各診療科に提出いただき、前年比 120%と件数は増加した。血液培養装置については、稼働 18 年目で機器更新を行って頂き、令和 4 年度に更新機器が導入予定である。

また検査業務の他にも、令和 3 年度は NHO 共同研究（薬剤耐性菌感染が病院経営に与える追加的医療資源と感染管理、抗菌薬の適正使用に関する多施設共同サーベイランス研究）に参画し、データの抽出・会議への参加・論文査読等を行った。この共同研究に関しては令和 4 年度も継続して参加予定である。令和 4 年度も一般細菌検査と新型コロナウイルス PCR 検査を並行して行いながら、院内感染対策にも尚一層取り組んでいく。

（生理検査部門）

令和 3 年度の生理検査総件数は 7,222 件で対前年度（6,995 件）と比 103%となった。一般生理検査については、心電図は 3,739 件で前年度比 102%、呼吸機能検査は 214 件で 108%と増加、超音波検査総数も 2,312 件で前年度比 110%と増加した。乳腺以外ほどの領域の臓器についても件数的に前年度を上

回り、特に心臓・腹部、甲状腺・下肢血管の超音波検査の件数が伸びている。また平成 30 年 8 月から運用を開始した長時間ビデオ脳波同時記録検査については、令和 3 年度 119 件（令和 2 年度は 262 件/年（1 日記録/件カウント））の実績、月平均 10 件（令和 2 年度は月平均 22 件）で今年度は減少した。この長時間ビデオ脳波同時記録検査については検査の実施の他、患者さんへの事前の検査説明も加えて行っており、今後も積極的に取り組んでいきたい。

また、令和 2 年 8 月より CPX（心肺運動負荷試験）検査関連機器を生理検査室に配置し、心臓リハビリ検査を新規項目として開始した。先生をはじめ他部門のスタッフとともに、チーム医療の一員として今年度も参加した。新年度も件数アップに取り組んでいく。その他、長時間心電図検査（7 日間記録）・下肢動脈エコーの検査を新規に開始した。また令和 3 年 3 月に超音波検査装置が 1 台増設となり、件数アップに繋がった。

新年度はホルター心電図検査件数の 5%増加と、外来患者の頸動脈エコー検査件数増加を目標とし、件数増加に努めていきたい。

以上、部門ごとの取り組みに関して述べたが、令和 4 年度は今以上に各部門で連携を取りながら、件数アップや新規項目の導入、コスト削減等について検討する。また、各種認定資格取得や各種研修会・学会参加発表にも全員で取り組んでいく。

最後、老朽化した検査機器について、超音波検査装置（2005 年 9 月取得：17 年目）、血液ガス測定装置（2010 年 11 月取得：12 年目）、血糖関連機器（2010 年 12 月取得：12 年目）、全自動免疫測定機器 2 台（2012 年 10 月取得：10 年目）（2013 年 3 月取得：10 年目）、血液型輸血検査機器（2014 年 1 月取得：9 年目）など検査の要となる機器について不安が拭えない状況にある。耐用年数は過ぎており、機械的な部分は丈夫でも OS などソフトウェアが急に動かなくなる可能性も否定できない。部品の供給も限りがあり、早めの更新を願っている。

リハビリテーション科

理学療法士長 今村 奈那

理念

《リハビリテーション科理念》

地域に根付き、家庭・社会への復帰を目指した総合的なリハビリテーションの提供をめざします。

《リハビリテーション科運営目標》

- ・患者さんの尊厳を重視し、プライバシーを守ります。
- ・患者さんの自立支援・生活の質（QOL）の向上を最大限に図ります。
- ・「急性期から在宅まで」包括的かつシームレスなリハビリテーションサービスを提供します。
- ・地域住民の健康維持、増進のために貢献します。
- ・自己研鑽に励み、働きがいのある職場作りに努めます。

《目標》

- 1) 休日リハビリテーションの継続（土曜リハ・大型連休時）
- 2) 包括病棟のリハビリ基準達成
- 3) 訪問リハビリテーションの継続
- 4) がんリハビリテーション研修への参加継続
- 5) 診療報酬適正化・実績の向上を図る
- 6) 心臓リハビリテーションの開設
- 7) 学会への積極的な参加・発表
- 8) 他部門との連携強化
- 9) 養成校学生の受け入れ継続

スタッフ

リハ科医長(兼任) : 1名

定員 理学療法士 : 11名 作業療法士 : 4名 言語聴覚士 : 3名

非常勤職員(助手) 1名

施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 廃用症候群リハビリテーション料 (I)

運動器疾患リハビリテーション料 (I) 呼吸器疾患リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

週間スケジュール

- ・神経内科病棟カンファレンス (木曜 15:00～)
- ・包括病棟カンファレンス(水曜 8:40～)
- ・心臓リハビリテーションカンファレンス (水曜 16:30～)

主な対象疾患と特色

対象疾患 : 神経・筋疾患、整形疾患、脳卒中、呼吸器疾患、外科術前後、脳外科術前後、心不全

特色 : 神経筋疾患の基幹施設であるため、治療・検査・レスパイト目的に入院された難病患者のリハビリを実施している。また、脳卒中・整形外科疾患等、早期リハビリを実施している。

また、外科・脳外科の術前術後、がんリハ、神経・筋疾患患者へ呼吸リハも取り組んでいる。さらに摂食・嚥下障害に対する嚥下リハビリテーションや、神経筋疾患患者への意思伝達装置の導入やスイッチの改良も積極的に行っている。2015.8より地域包括ケア病棟のリハビリテーション、2016.6より訪問リハビリテーションを平日午後から実施している。

2020年8月より心臓リハビリテーション開始。

2021年度診療実績

	疾患別件数（件）	疾患別単位数（単位）	療法士 1日平均単位数
理学療法	17,785	34,143	17.2
作業療法	8,294	15,161	17.5
言語聴覚療法	疾患別：7,061 摂食機能訓練：132	10,485	17.3
訪問リハビリテーション	460	920	

施設内活動への参加状況

管理診療会議、病床管理会議、月次評価会議、医療安全部会、医療安全推進部会、NST委員会、療養介護運営委員会など

研究・発表活動

- 学会や臨床研究は各自が設定 その他、地域・神経難病研修・院内での講演を年数回実施。
- 科内勉強会(月1回)

連休等の対応

土曜日は二人体制で出勤 長期連休は交代で出勤（連日ではない）

栄養管理室

栄養管理室長 金子 友美

1. 概要

スタッフは管理栄養士（栄養管理室長、栄養係）非常勤栄養士 2 名、非常勤事務員 1 名、調理師 4 名の計 9 名。業務内容は入院患者の食事療養（食事提供）、栄養管理、入院・外来患者への栄養食事指導、食事形態の調整や食欲不振等患者の対応、栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）の運営・活動等、多岐にわたっている。またチーム医療として褥瘡チーム、緩和ケアチームにも参画した。

2. 業務実績

①食事サービス

献立には季節ごとの野菜や果物、魚を随時取り入れた。また、毎月、行事食として季節に合わせた食事や日本各地の郷土料理の提供を行った。患者への食事アンケートでは、多くの方より「食事に満足している」という意見を頂いた。また、患者の希望が多かった献立表を導入したり、回数を増やしたりして満足度を高める工夫を行った。

令和 3 年度は栄養補助食品のリニューアルを行った。NST 委員会活動と共同で食事介助に関わるスタッフへアンケート調査を実施し、飲料、ゼリー、おかずゼリーすべてにおいて見直しを行った。試食を行い、安全でおいしくかつ安価なものを採用し、患者の栄養管理に積極的に取り組めるよう調整した。

②栄養食事指導件数

2021 年度個人栄養食事指導は 702 件実施。指導疾患は糖尿病、心臓病、高血圧症が多かった。集団栄養食事指導として、糖尿病教室を管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師とともに毎週 1 回実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となっている。

【栄養食事指導件数】

個人指導				合計
算定		非算定		
入院	外来	入院	外来	
488	127	83	3	701

【疾患別栄養食事指導件数】

疾患	件数	疾患	件数
糖尿病	235	低栄養	13
心臓病	146	胃・十二指腸潰瘍	13
高血圧症	99	痛風	8
脂質異常症	54	肥満症	8
腎臓病	33	胆石症	6
摂食嚥下	23	膵臓病	6
肝臓病	19	低残渣食	6
がん	16	クローン病・潰瘍性大腸炎	2

手術	14		
----	----	--	--

③特別食加算率

加算率は **25.8%**であった。提供数が多かった特別食は糖尿病食、心臓病食だった。

食事療養数	普通食	非加算特別食	加算特別食	加算率 (%)
201,208	28,239	131,002	55,437	25.8%

④経理状況

食材の単価をみながら献立調整を行い、適正価格での食事提供に努めた。

年間消費額	1食あたりの実行単価
53,558,826 円	249.48 円

3. 学会発表・講演会

特になし

臨床研究部

臨床研究部長 福留隆泰

A 欧文

No.	著者・タイトル・学術雑誌名・巻号・年
A-a	
	Oishi M, Mukaino A, Kunii M, Saito A, Arita Y, Koike H, Higuchi O, Maeda Y, Abiru N, Yamaguchi N, Kawano H, Tsuiki E, Tanaka T, Matsuo H, Katsuno M, Tanaka F, Tsujino A, Nakane S. Association between neurosarcoidosis with autonomic dysfunction and anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies. <i>J Neurol</i> . 2021 Nov;268(11):4265-4279.
	Shimoda S, Shimoda M, Higuchi O. Effect of Self-Affirmation on Smartphone Use Reduction Among Heavy Users. <i>Psychol Rep</i> . 2022
	Mori T, Sato A, Oka A, Higuchi O, Mizuguchi M. Anti-lipoprotein receptor-related protein 4 antibody titer correlates with the clinical course of myasthenia gravis. <i>Pediatr Int</i> . 2022
	Umeda M, Kawano H, Endo Y, Takatani A, Koga T, Ichinose K, Nakamura H, Mukaino A, Higuchi O, Nakane S, Maeda T, Kawakami A. Intravenous cyclophosphamide treatment for systemic lupus erythematosus with severe autonomic disorders confirmed by head-up tilt table test: A case series. <i>Mod Rheumatol Case Rep</i> . 2022
	Matsumura T, Takada H, Kobayashi M, Nakajima T, Ogata K, Nakamura A, Funato M, Kuru S, Komai K, Futamura N, Adachi Y, Arahata H, Fukudome T, Ishizaki M, Suwazono S, Aoki M, Matsuura T, Takahashi MP, Sunada Y, Hanayama K, Hashimoto H, Nakamura H. A web-based questionnaire survey on the influence of coronavirus disease-19 on the care of patients with muscular dystrophy. <i>Neuromuscul Disord</i> . 2021 Sep;31(9):839-846.
	Kiyohara T, Fukudome T, Kamio Y, Koike Y, Murota H. Clinical Course of Atopic Dermatitis in an Adult with Amyotrophic Lateral Sclerosis: Aetiological Implications of Voluntary Movements and Dermatitis Severity. <i>Acta Derm Venereol</i> . 2022

B 邦文

No.	著者・タイトル・学術雑誌名・巻号・年
B-a	
	常染色体劣性遺伝型肢帯型筋ジストロフィータイプ 14(LGMDR14)の一家系. 富田 祐輝, 松屋 合 歓, 成田 智子, 斎藤 良彦, 西野 一三, 福留 隆泰. 臨床神経学(0009-918X)61 巻 6 号 Page378-384 (2021. 06)

学会発表数

国際学会 招待講演、特 別講演、受賞 講演	国際学会		国内学会 招待講演、特 別講演、受賞 講演	国内学会	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
	0	0		0	2

社会活動

氏名	委員会等名	関係機関名
福留隆泰	理事	長崎県難病医療連絡協議会
福留隆泰	顧問	長崎県 ALS 協会
樋口理	評議員	日本神経免疫学会

民間等との共同研究

特になし

競争的研究資金獲得状況

項目	研究課題名	研究者名	研究事業名(依頼業者名)	主任分担の別
厚生労働科学 研究費	スモンに関する調査研究	福留 隆 泰	厚生労働省行政推進調査事 業補助金 難治性疾患等政 策研究事業(難治性疾患政策 研究事業)	分担

日本医療研究 開発機構研究 費	難治性神経筋疾患の画期的治 療に向けた筋特異的受容体チロ シンキナーゼ活性化剤の開発	樋口 理	国立研究開発法人日本医療 研究開発機構	分担
日本学術振興 会科学研究費	自己免疫性自律神経調節 障害の「多様性」に関する多 角的研究	樋口 理	科学研究費補助金(学術研究 助成基金助成金・基盤研究 (C) 一般)	分担

特 許

氏名	特 許 権 名 称	出願年 月日	取得年月 日	番号
福留隆泰	興奮収縮連関の障害の判定装置の作 動方法		2017.9.15	6206912 号

講演

大村東彼杵薬剤会薬学講習会 「パーキンソン病の診断と治療」 福留隆泰 令和3年9月9日

Oita young neurologist conference 「神経難病の電気生理学的検査」 福留隆泰 令和3年11月16日

波崎町 ACP 講演会 「人生会議」 福留隆泰 令和3年12月11日

医療相談支援センター ― 地域医療連携室 ―

病棟師長名 富永 文子

基本方針

1. 円滑な前方連携、後方連携の実践
2. 患者のための多職種チーム医療の実践

目標

1. 患者・家族の思いを尊重した退院支援、退院調整を実施する
2. 組織の一員として病院経営の安定化に向けた経営参画ができる
3. 退院支援、退院調整の知識向上と接遇向上を図る

I. 患者の動向

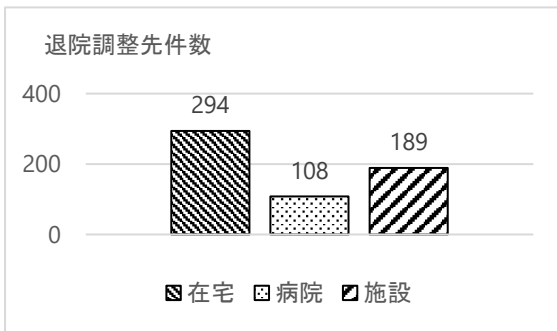
診療予約件数	1042 件
共同利用件数 CT	325 件
MRI	621 件
内視鏡	105 件
その他	19 件
入退院支援加算 1 (600 点)	583 件
介護支援等連携指導料 (400 点)	14 件
多機関共同指導加算 (2000 点)	1 件
支援相談件数	1949 件
入院支援センター介入件数	528 件
転院受入れ相談件数	97 件

II. 看護職員等数 (4/1 現在数)

看護師長	1 名
看護師	2 名

医療社会事業専門員	2名
事務助手（看護部）	1名
事務助手（事務部）	2名

Ⅲ. 退院調整先一覧



Ⅳ. 看護

目標 1. 患者・家族の思いを尊重した退院支援、退院調整を実施する

入退院支援二次スクリーニングカンファレンスの開催にて患者の退院に関する方向性を確認し外部担当者と連携しながら退院調整を進めることができた。患者の状態から方向性の変更があった場合、病棟との連携がとれず調整が遅れることがあった。今後も病棟と連携を取り退院目標を明確にし、多職種で協働して患者が安心して退院できるよう進めていく。

目標 2. 組織の一員として病院経営の安定化に向けた経営参画ができる

入院予約の段階から退院困難な要因をアセスメントし退院支援、退院調整を図り入退院支援加算 1 は月平均 46.6 件取得した。コロナ感染の影響で退院前カンファレンスの開催ができず月平均 1 件で加算あった。今後はオンラインを活用するなど加算増に取り組む必要がある。超過勤務削減の取り組みとして、超過勤務内容を抽出し検討を行い面談時のタイムリーな記録の実施と事務助手の勤務時間体制の見直しを行い超過勤務の削減に繋げた。

目標 3. 退院支援、退院調整の知識向上と接遇向上を図る

病棟の退院支援委員と情報共有し受け持ち看護師が主体的に退院支援ができるよう連携室として患者情報を把握し意図的に退院後の生活を見据えた情報について病棟へ確認し、退院支援の向上に努めた。又連携室では、社会資源に関する知識を深め患者の退院調整に活用した。7 月に接遇、マナーに関する資料の読み合わせを行い、声のトーンや言葉使いが相手の印象に影響することを理解し、外部との調整が多い連携室スタッフの接遇向上の取り組みを実施した。

Ⅵ. 看護研究・学会発表

実績なし

危機管理センター

危機管理センター－医療安全管理室－

医療安全管理室 坂上 睦子

基本方針

1. 医療安全に対する職場風土の醸成
 - 1) 病院職員のリスク感性を高めるための活動・人材育成
 - 2) “人は間違えるものである”という認識を持ち、継続した教育とシステム改善
2. 患者参加型のチーム医療の実践

目標

1. インシデント及び事故報告の分析を丁寧に行い、フィードバック後の実践状況を確認する。
2. 医療安全マニュアルの改訂・整備、周知
3. 情報の共有、効率的な医療を提供するために多職種との定期的なカンファレンスを実施する

I. インシデント状況

1. 発生件数（件）

年度	2019年度	2020年度	2021年度
件数	676	567	470

2. レベル別件数（件）

	2019年度	2020年度	2021年度
ヒヤリ	—	23	38
0	144	98	20
1	264	257	128
2	233	176	203
3a	29	32	63
3b	5	4	15
4以上	0	0	0
評価困難	1	0	2

3. 主な内容（件）

	2019年度	2020年度	2021年度
与薬	117	91	52
点滴注射	26	35	25
処置関連	22	35	14
検査関連	70	48	24
チューブ	31	39	42
人工呼吸器	58	26	4
転倒転落	126	122	135
療養上世話	26	28	18
皮膚損傷	41	36	31
患者誤認	9	15	8

4. レベル 3b 事例 8 件

①点滴に関する事 1 件

②与薬に関する事 1 件

③治療・処置に関する事 1 件

④転倒転落に関する事 4 件

⑤皮膚損傷 1 件

II. 評価

1. 医療安全部会、医療安全管理委員会においてインシデント事例および事故報告の要因分析、対策検討を行っている。警鐘事例等として会議で周知を図っているが、現場へのフィードバックが不十分である。今後フィードバックの方法を検討する必要がある。
2. インシデント事例発生時に、関連するマニュアルを見直し改訂している。
医療安全推進担当者を活用し、優先順位を考慮した割り振り計画と実施計画を立て取り組む。
3. 看護師によるインシデントカンファレンスは定着しているが、多職種とのカンファレンスが実施できていない、

事実確認及び要因分析が弱い等の課題がある。他のコメディカル部門でも、対策の周知に終わっていることが多い。カンファレンスのあり方検討と医療従事者間の連携強化が必須である。

Ⅲ. 医療安全相互チェックおよび医療安全管理者会議

1. NHO 医療安全相互チェック

2021年11月、オンライン

2. 地域連携における相互チェック

2021年11月 加算2 病院訪問

2022年1月 加算1 紙上評価

3. 佐賀県・長崎県小グループ医療安全管理者会議

メールによる意見交換、情報共有

Ⅳ. 学会発表

なし

危機管理センター — 感染管理 —

感染管理指揮官 今里 純子

感染管理認定看護師 内野 めぐみ

基本方針

感染対策室は、医療行為に関連した病院感染症の予防と制圧および医療従事者の職業上の安全と健康を担当する部門であり、病院内のすべての領域に関与して横断的な活動を展開する役割を担っている。

I. 実績

1. 入院患者の感染対策

	2022年3月現在
耐性菌介入数	67件
血培陽性介入数	101（陽性件数）
コンサルテーション介入数	82件

2. 施設基準など取得状況

新規入院患者数	2,235名
加算計 490点×10	10,951,500点

II. 感染対策に関する教育・研修

1. 2021年度新採用者教育
2. 感染管理に関する院内教育
(看護補助者研修)
3. 手指衛生の啓発 各月・毎週の手指消毒薬使用量を集計し、各部署に結果をフィードバック
4. 感染対策室支援看護師による遵守率チェック、環境ラウンド

Ⅲ. 病院職員の健康管理

1. 新採用者・異動者の4種抗体チェック
2. 季節性インフルエンザワクチン接種
3. 新型コロナワクチン接種
4. 6階病棟、8病棟、訪問看護ステーション、外来看護師は定期的にPCR検査実施
5. スタッフ・家族の体調不良者のPCR検査調整

Ⅳ. 感染発生の動向監査

1. 1回/週、ICTメンバーが院内巡視活動を実施し、感染対策実施の確認と指導を行っている。
2. 手術部位感染サーベイランス（JANIS）
2021年度手術部位感染発生件数3件

Ⅴ. 抗菌薬の適正使用

特定抗菌薬の届出制を行い薬剤師が中心となり、適正使用に対する相談と2週間以上の長期投与患者がないか情報共有した。

Ⅵ. 加算施設との合同カンファレンス

地域連携加算施設（大村市民病院）との合同カンファレンスは新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった。紙面上で自己評価を実施し、各施設の評価結果を情報共有した。

加算2連携施設(長崎病院)と4回/年（1回訪問、3回Web）合同カンファレンスを実施した。新型コロナウイルス感染対策、陽性者の入院受け入れ体制について検討した。

Ⅶ. 感染対策のための職員研修

開催日	テーマ	講師	受講率
2021年	「新型コロナ感染症について」	ICD	99.2%

9月27日～ 10月29日			
2022年 3月11日～ 3月31日	「基本的な感染 対策」	感染 対策 室	98.6%

VIII. 看護師の育成

今年度、国立病院機構内の7施設（内3施設は2回）述べ10名の感染管理認定看護師に病院間派遣で来ていただいた。リンクナースも一緒に感染対策室業務やラウンドを行う中で、違う視点での気づき、また根拠について伝えてもらうことで、リンクナースの成長にもつながった。

医療機器管理室

医療機器管理室長 津田 真実

臨床工学技士2名在籍。

主な業務:

医療機器管理室内の業務(医療機器の管理・点検など)、血液浄化業務、手術室業務、ペースメーカー関連業務、使用中の人工呼吸器管理、心カテ立会い、勉強会・説明会開催など

① 医療機器管理(貸出・返却・点検)

・貸出し前点検、定期点検、修理(メーカー手配含む)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
保守点検 修理業務	貸出	68	61	69	76	74	94	127	85	62	79	43	81	919
		91	67	87	77	81	49	51	67	77	80	61	100	888
	返却	51	84	73	62	91	86	114	73	64	70	36	73	877
		88	64	73	83	84	47	48	55	83	81	73	88	867
	貸出前点検	56	79	67	63	93	76	141	70	66	72	40	78	901
		94	65	72	72	83	43	44	64	84	83	78	98	880
	定期点検	10	23	15	14	42	9	10	5	8	15	7	23	181
		14	30	13	4	4	4	0	2	21	13	7	10	122
	修理	0	0	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	5
		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2

※赤文字:2021年度、灰色背景:2020年度

② 手術室

・術中モニタリング(脳波、筋電図測定)

・DBS、ITB、VNS、SCSなど手術立ち合い

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
術中 モニタリング	脳波、筋電図	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
DBS (脳深部刺激療法)	新規植込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	IPG交換	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5
ITB (バクロフェン髄注療法)	新規植込み	6	2	1	3	1	1	1	2	3	3	3	2	28
	リフィル	2	2	0	0	0	2	0	0	1	3	2	2	14
VNS (迷走神経刺激療法)	新規植込み	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	IPG交換	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
SCS (脊髄刺激療法)	新規植込み	2	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	6
	IPG交換	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
SCS (脊髄刺激療法)	新規植込み	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	IPG交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※赤文字:2021年度、灰色背景:2020年度

③ 血液浄化業務 (アフレスシス業務)

単純血漿交換、CHDF、PMX、腹水濾過濃縮再静注法、GCAP

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
血液浄化 業務	単純血漿交換	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	J039:4,200点	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
	CHDF(日数)	0	1	0	0	0	4	2	0	2	0	0	5	14
	J038-2:1,990点	0	5	5	0	0	0	0	0	4	0	0	4	18
	PMX	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	J041:2,000点	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
	腹水濾過濃縮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	K635:4,990点	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
GCAP	0	7	0	0	1	5	4	2	8	2	4	4	37	
J041-2:2000点	0	0	0	7	8	12	4	8	2	0	0	0	41	

※赤文字:2021年度、灰色背景:2020年度

④ 人工呼吸器管理業務

- ・ 回路交換後の確認(8病棟は2回/週)
- ・ 人工呼吸器の設定や動作確認(20~40件/日)
- ・ トラブル対応

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
人工呼吸器 管理業務	ラウンド	553	596	789	490	707	616	438	526	475	535	381	501	6607
		738	720	706	831	707	753	499	522	667	350	348	651	7492

※赤文字:2021年度、灰色背景:2020年度

⑤ ペースメーカー関連業務

- ・ 植込み、交換時の立会い(プログラマー操作等)
- ・ 外来のフォローアップ(5~6人/週)(毎週金曜 13:00~15:00)
- ・ 他科手術時設定変更など

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
ペースメーカー 関連業務	外来	20	18	19	21	12	15	14	22	20	17	14	8	200
	フォローアップ	21	14	17	24	17	9	24	16	21	17	16	9	205
	入替術後チェック	2	2	6	0	0	1	1	5	2	0	0	1	20
		9	5	3	3	0	4	4	2	0	0	2	0	32
	手術立会い	2	1	5	0	0	1	1	1	1	0	1	1	15
		1	6	0	1	2	2	4	1	0	1	1	0	19
MRI立会い	1	1	3	0	2	0	1	1	3	1	1	0	15	

※赤文字:2021年度、灰色背景:2020年度

⑥ 冠動脈カテーテル検査間接介助(CAG)(2021年8月以降中止)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
冠動脈カテーテル 検査間接介助(CAG)	3	2	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	1	2	5	3	1	6	9	2	4	5	3	0	41	

※赤文字:2021年度、灰色背景:2020年度

⑦ 医療機器安全使用研修会

・勉強会、説明会の実施

2020年度の実施件数 54回(人工呼吸器関係 50回、その他 4回)

日時	場所	内容	対象者	参加者数
4月1日(木)、16日(木) 10:00~11:00	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	2名
4月12日(月)14:00~15:00	8病棟	人工呼吸器とは	看護師	1名
4月14日(木)14:00~15:00	8病棟	NPPVについて	看護師	1名
4月19日(月)14:00~15:00	8病棟	人工呼吸器トリロジーについて	看護師	1名
4月19日(月)16:00~16:15	5階病棟	CO2 モニタについて	看護師	6名
4月26日(木)10:30~11:30	8病棟	人工呼吸器モナールについて	看護師	1名
5月18日(火)16:30~16:45	5階病棟	CO2 モニタについて	看護師	6名
6月1日(火)13:00~14:00	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	1名
6月14日(月)13:30~14:00	7病棟	8病棟で使用している人工呼吸器について	保育士	4名
6月17日(木)16:30~17:30	5階病棟	人工呼吸器トリロジーについて	看護師	2名
6月21日(月)16:30~17:30	5階病棟	人工呼吸器トリロジーについて	看護師	2名
7月12日(月)14:30~14:45	5階病棟	人工呼吸器 VOCSN について	看護師	17名
7月15日(木)~21日(水) 15:00~15:30	医療機器 管理室	人工呼吸器 NKV-550 について	医師/看護師	12名
8月2日(月)~26日(木) 15:00~15:30	8病棟	人工呼吸器トリロジーEvo について	看護師	39名
8月31日(火)16:30~16:45	5階病棟	人工呼吸器モナールについて	看護師	6名
9月1日(水)16:30~16:45	5階病棟	人工呼吸器 VOCSN について	理学療法士	3名
9月8日(水)16:30~16:45	5階病棟	人工呼吸器 VOCSN について	看護師	4名
10月1日(金)14:00~15:00	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	1名
10月6日(水)10:30~10:45	8病棟	人工呼吸器パラパックについて	看護師	1名
10月15日(金) 16:00~17:00	6階病棟	感染対応人工呼吸器について	看護師	1名
10月18日(月) 16:30~17:15	6階病棟	人工呼吸器サーボ S について	看護師	1名
10月26日(火)、27日(水) 14:30~15:00	外来	除細動器について	看護師	12名
11月1日(月)14:00~14:40	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	1名
11月1日(月)15:00~15:15	8病棟	8病棟で使用している人工呼吸器について	介助員	1名
11月11日(木)15:45~16:00	4階病棟	人工呼吸器トリロジーEvo について	看護師	2名
11月17日(水)14:30~14:45	3階病棟	人工呼吸器トリロジーEvo について	看護師	2名
3月29日(火)~31日(木) 11:00~12:00	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	8名

資格等について

1) 所有資格・認定

認定・資格	取得人数	認定学会名
臨床 ME 専門認定士	1	日本生体医工学会 日本医療機器学会
医療機器情報コミュニケーター	1	日本医療機器学会

日本アフェレンス学会認定技士	1	日本アフェレンス学会
3学会合同呼吸療法認定士	1	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会
第1種 ME 技術者	1	日本生体医工学会
第2種 ME 技術者	2	日本生体医工学会
BLS ヘルスケアプロバイダー	1	長崎 ACLS トレーニングサイト

2) 所属学会

所属学会	役職
日本アフェレンス学会	評議員(2023年総会まで)
日本臨床工学技士会	
日本心血管インターベンション治療学会	

事務部—管理課—

管理課長 白石 剛

令和3年度 病院行事

	一般行事	その他
4月	辞令交付式 (4/1) 転入者・新採用者オリエンテーション (4/2)	歓迎会 中止
5月	永年勤続表彰 (5/14)	
6月	一般健康診断 (6/14~18) 看護職員採用試験 (6/26)	
7月	訪問看護ステーション実地指導 (7/21)	
8月		
9月	ストレスチェック (9/2~22) 監査法人期中監査 (9/14) ※オンライン	生涯教育講座 (9/2) 「コロナ禍を乗り越え、働き方改革を見据えて長崎川棚医療センターはいかに未来に向かうか」～診療報酬改定と医療制度改革の方向性を含めて～
10月	患者満足度調査 (入院 10/1~31、外来 10/19 及び 21) 本部による内部監査 (10/5~6) ※オンライン 国立病院総合医学会 (10/23~11/20) ※オンライン 幹部看護師任用候補者選考試験 (10/30) ※オンライン	消防訓練 中止
11月	地域医療支援病院運営委員会 (11/25)	健康フェスタ 中止
12月	医療監視 ※書面検査	合同忘年会 中止
1月	特殊健康診断 (1/17~21)	新年懇親パーティー 中止
2月		
3月	九州グループ主催看護師就職説明会 (3/5) ※オンライン 長崎県主催看護師就職説明会 (3/19) ※オンライン 辞令交付式 (3/31)	消防訓練 中止 合同送別会 中止 ボランティア感謝の集い 中止

事務部—企画課—

企画課長 出良 和之

2021年度 医療機器等契約状況一覧

機器等区分	機器名	メーカー	規格	数量	契約(予定)月等	更新 新規 増設	備 考
					納品月		
その他	内視鏡画像転送装置	オリンパス	MAJ-2293	1	R3.5	更新	
その他	自動遺伝子解析装置	サーボゲイザー	アプライドバイオシステムズ® QuantStudio5Dxシステム	1	R3.5	増設	コロナ関連整備
人工呼吸器(一般)	汎用人工呼吸器	日本電産	NKV-550	1	R3.5	増設	新興感染症関連整備
CR装置	DR撮影システム	富士フイルムデジタル	CAUNEO Smart	1	R4.7	更新	
血球計数器	多項目血球分析装置	シスメックス	XN-1000	1	R4.4	更新	
全自動血液凝固測定装置	全自動血液凝固測定装置	シスメックス	CS-1600	1	R4.4	更新	
その他	自動採血管準備装置	シスメックス	BC-ROBO	1	R4.6	更新	
その他	HEPAフィルタ付き空気清浄機	フクダ電子	FDS-GON ALPHA	2	R3.9	新規	コロナ関連整備
その他	自動血液培養分析装置	バイオリユール	バクテアラート3D	1	R4.6	更新	
その他	簡易陰圧装置	日本エアテック	FELU-20	2	R3.12	増設	コロナ関連整備
その他	外科手術用内視鏡システム	オリンパス	MSERA ELITE II	1	R4.8	更新	
合 計				13			